

住宅クロスレビュー | 03 古材

1本1本が個性をもつ古材
材との対話から空間を描き出す

取材・文 | 松浦隆幸
写真 | 藤塚光政

異なる時代につくられながら共通するテーマをもつふたつの住宅を取り上げ、それぞれの設計者が語り合う「住宅クロスレビュー」。今回のテーマは「古材」。

40年の時を隔ててつくられた2軒の住宅は、いずれも古材を活かして設計者が自ら施工も手がけた自邸だ。

1973年完成の「プーライエ」は、鯨井勇氏が大学在学中に自力で作り始め、古材で築き上げた。

2014年完成の「元代々木の家」は、“設計から大工まで”を掲げる「鯨組」を率いる岸本耕氏が、まさに自らつくった。

独力で材と向き合った鯨井氏と、大工棟梁の田中文男氏に師事した岸本氏。来歴こそ異なるが、材に耳を傾け、材の声を聞いて、使い方を見出す姿勢は通底する。この“鯨”と“鯨”の対談から、材を読み、建築をつくり上げる術を解く。

鯨井 勇
「プーライエ」1973年

岸本 耕
「元代々木の家」2014年



くじらい・いさむ 建築家/1949年東京都生まれ。1972年日本大学工学部建築学科卒業。末松設計事務所、小崎建築設計事務所を経て、1976年に監設計室設立。武蔵野大学などで非常勤講師を務める。主な作品・受賞に、「プーライエ」(1973、JIA25年賞)、国際コンペ「都市と自然の調和」社の都仙台 最優秀賞(1991)、「大子の家」(1993、JIA環境建築賞)、オホーツクまちなみ整備「アーバンデザイン FROM くんねっぶ」優秀賞(1996)、「Sウィメンズ病院」(2003、山形公募コンペ最優秀賞)など。

きしもと・こう 建築家・大工/1978年神奈川県生まれ。芝浦工業大学建築学科卒業後、大工棟梁の田中文男氏に師事。2004年に独立して吉川の鯨を設立。2005年に有限責任事業組合化、2009年に株式会社。2017年に鯨組へ改称。現在、鯨組代表取締役。芝浦工業大学講師。「鯨の家」(2004)、「元代々木の家」(2014)など、設計・施工を多数手がける。

元代々木の家

岸本耕

住宅が立て込む緩やかな丘の高台に建つ。隣接する建物の間を縫って視線が抜ける、東向きの中庭を囲むコの字形プランが、地下1階から地上2階まで続く。地下は茶室、地上は住居という構成。茶室に用いた材料は、再開発に伴って解体された日本橋倶楽部の茶室の古材を再利用した。中庭に面して寄付があり、その左右に三畳台目の小間と、六畳ほどの立礼席がある。寄付に見られる竹のかまぼこ天井や、小間の網代天井などは、ほぼ原形のまま再利用している。一方、立礼席の床に石州瓦を敷くなど、古材とのバランスを踏まえて空間の意匠は一新した。小間も、天井や床柱などに古材を用いつつ、新材を用いて新しい茶室に再構成している。木造でつくられた2層の住居空間は、自然光が奥まで届く現代住宅。大壁の柱は一般的な4寸だが、化粧柱は5寸。暖炉がある居間の正面を、床の間のような象徴的な場所と位置づけ、真ん中に立つ柱1本をケヤキの古材でしつらえている。



1



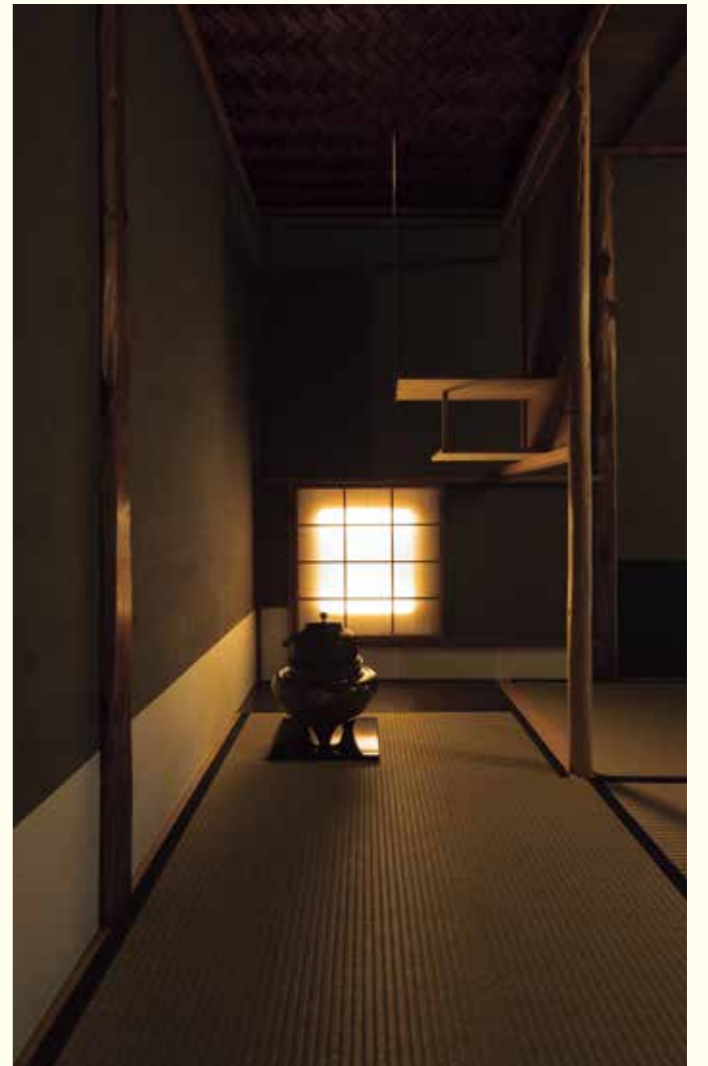
2



3



4



5

元代々木の家

所在地 | 東京都渋谷区

敷地面積 | 82.00㎡

設計・施工 | 鯨組

延床面積 | 147.76㎡

構造 | 木造+鉄筋コンクリート造

竣工 | 2014年6月

階数 | 地下1階・地上2階

1 茶室の寄付から見た中庭。寄付と中庭を挟んだ両側に茶室がある

2 地下にある茶室の寄付の天井は、日本橋倶楽部ビルの茶室の天井材を使い再構成したもの

3 中庭に面した小間のにじり口。枠のクリは古材を加工したもの

4 小間の床の間にも、古材の柱を用いている

5 小間の点前座。柱や違い棚は、古材と調和するように新材でつくった

元代々木の家にて

解体された茶室の古材を自邸の茶室に再構成

—今日は、岸本さんの自邸「元代々木の家」にお邪魔しました。2階建ての地上部分が住居で、今、私たちは地下にある茶室の寄付にいます。鯨井さんは今回の訪問を楽しみにしていたそうですね。

鯨井 大学卒業後に大工の修業をして、設計も施工もこなす建築家だと知って、岸本さんに興味を抱いたんです。他のプロジェクトでも民家などの古材を活かしていて面白いですね。この茶室も、かなり古材を使われているようですが、ご自分でつくられたのですか？

岸本 茶室から住宅部分まで、私が経営する「鯨組」の大工たちとつくりました。この茶室で使った古材はすべて日本橋倶楽部⁰¹からいただいたものです。戦後、日本橋の中央通りに面した日本橋倶楽部ビル内につくられた茶室

が、再開発に伴って解体されるという話があり、大急ぎでもらいに行きました。では、三畳台目の小間をご案内します。

女萩の網代、幅広のへぎ板… 今や貴重な古材を再利用

鯨井 この小間は、元の茶室をそのまま再現したものではないですよね？

岸本 以前と同じ広さですが、まったく違う茶室にしつらえ直しました。もともとは江戸間(1760×880mm)の四畳半でしたが、点前座の台目畳と踏み込み畳だけ京間(1910×955mm)に替えました。そうすると、寸法の帳尻合わせが必要なので、客座の畳は、縁を両側2本ではなく、片側1本だけにしました。

鯨井 四隅の柱や、壁、畳などは新材のようですが、まったく違う茶室につくり直すなかで古

い材はどのように使ったのでしょうか？

岸本 床柱や天井はそのまま使いました。柱と天井の関係を残して、向きを変えています。床柱の長さは決まっているので、天井高は以前と同じです。

鯨井 点前座の天井は、普通の網代ではないですね。何ですか？

岸本 女萩の網代天井です。細い萩の茎を束ねて網代に組んだ珍しいものです。

鯨井 もうつくれないでしょう？

岸本 今では材料を手に入れることすら難しいでしょうね。相当の時間とコストをかければ何とかつくれるかもしれませんが。

鯨井 こちらの客座の天井もすごい。幅広のへぎ板ですね。

岸本 これほど幅の広いへぎ板を、芯もちの板目でパカッと割ってつくっているんです。厚さも2分(6mm)くらいあります。これももう今はつく



元代々木の家の上で話す岸本氏(左)と鯨井氏(右)。建て込んだ立地にありながら高台に位置するので、東京タワーや富士山も見える

れないですね。

鯨井 戦後、日本橋倶楽部の茶室にかかわった人たちが、木という素材をよく知っていたことが伝わってきますね。木を鋸で挽くと繊維が

傷付き、そこから水が浸みて傷みやすくなります。だから、昔の人たちは、屋根などには繊維に沿って割った板を使いました。形式はいろいろですが、寺社の屋根で今も使われていま

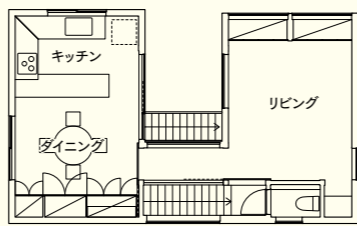


1

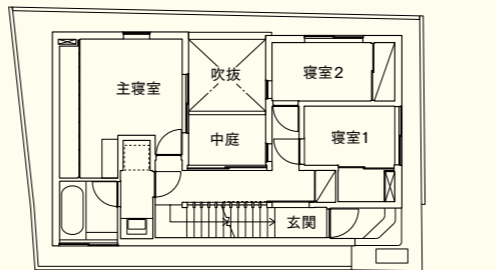


2

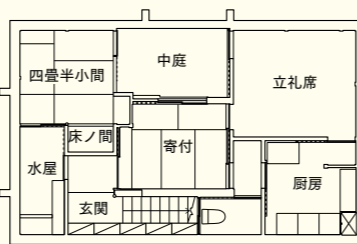
- 1 住宅の2階のダイニングキッチン。大開口を設けて、隣家の緑を借景として取り込んでいる
- 2 数戸が並ぶ道路の行き止まりに建つ



2階平面図



1階平面図

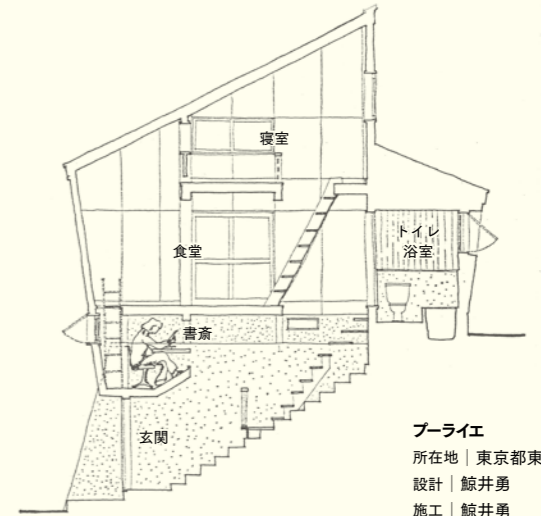


地階平面図 S=1:200

プーライエ

鯨井勇

大学卒業を控えた鯨井勇氏が、自力で建設を始めた自邸。関東大震災（1923年）のころから郊外開発構想のあった地で、地盤と眺望のよい高台の南東角地を敷地を選んだ。敷地の数メートル下に、切り土で敷かれた前面道路があり、コンクリート擁壁と大谷石積みのアプローチ階段が設けられていた。普通ならば、住居は平地の真ん中に建てるどころだが、擁壁の角をなぞるように家を建ち上げ、石積み階段も室内化した。使った材料は、ほぼすべてが古材。米軍キャンプの住宅と、古い蔵、そして近くの農家を解体した古材を集め、敷地に設けた作業場で加工した。2年あまりかけて完成したのは、50㎡ほどの小さな2階建ての住まい。フランス語で「鳥小屋」を意味する「プーライエ」と名づけた。敷地の真ん中に畑をつくり、住まいの向かいに仮設のアトリエも設けた。その後、1985年の住まいの増築とともに大規模に改修。2007年、耐震改修と蓄熱暖房・給湯システムの試作・増設を実施。さらに、2014年にアトリエを、木造2階建ての納屋（納屋）に建て替えている。



断面図 S=1:150 (1973年新築時)

プーライエ

所在地 | 東京都東村山市
 設計 | 鯨井勇
 施工 | 鯨井勇
 (増築: 鯨井勇+円建設、佐奈建設/
 耐震改修: 金子龍太郎/
 納屋: 浦野建築、矢野清美)
 構造 | 木造
 階数 | 地下1階、地上2階
 敷地面積 | 201.39㎡
 延床面積 | 51.50㎡ (プーライエ) /
 33.55㎡ (増築) / 83.84㎡ (納屋)
 竣工 | 1973年10月 (プーライエ) /
 1974年11月 (アトリエ) /
 1985年4月 (増築) /
 2007年7月 (耐震・蓄熱改修) /
 2014年3月 (納屋)

1970年代初頭に分譲された造成宅地の高台に建つ。最初の建物は、敷地の角に寄せて、大谷石の擁壁に沿って建てられた。左奥、カーポートの上が増築部分

す。この板を使った日本橋倶楽部の茶室は、良材のへぎ板の自然のきめ細やかな肌合いを活かして、柔らかな天井の意匠にしたものでしょうね。

イメージしていると材のほうから寄ってくる

鯨井 解体でいろんな古材をたくさんもってきて、すべてを使えるわけではないでしょう？
岸本 いえ、ほとんど使い切ります。この茶室でも、使わなかった材料はほとんどありませんでした。

鯨井 使い切るために、実際の設計にはどうやって組み込んでいくのですか？

岸本 古材と対話しながら、それぞれの材を活かせるように設計を進めていく感じ。この茶室の場合は、鯨組の工場で材料を広げ

て、「これはここに使えるかな」とか、「ここには合わないな」とか、何度も頭のなかで行ったり来たりしながら案を練っていきました。

古材は面白いですよね。自分の好きなように設計するわけにはいかない。でも、その制約があることで材との対話が生まれて、設計が面白くなっていきます。好き勝手な自分の思い通りにはいかないところが古材の魅力です。
鯨井 「材に聞く」という言葉を、僕はよく使うけど、岸本さんも同じですね。「どこにどう使ったら、いい按配に納まるかな」と、頭のなかで材と対話していく感じ。すでにある材料が相手だから、そういう対話が大切ですよね。

岸本さんは、普段から古材をストックしているんですか？

岸本 いえ、ほとんどストックは持ちません。たまたま手に入ったものを、その時々で使うことが多いですね。

たとえば、自宅の居間にあるケヤキの柱も、設計中に手に入った古材です。居間の正面に床の間のようなイメージをもっていて、何か象徴的な柱を立てたいと思っていました。そんな折、事務所の近くで、明治時代の民家を取り壊すから材料を何かに活かしてほしいという話があったんです。行ってみたら、イメージに合う立派なケヤキの大黒柱があったので、削り直して使いました。自宅部分（地上階）は、そのケヤキ以外は新材です。化粧柱は5寸、大壁の柱は4寸の吉野スギです。

鯨井 そういう偶然の出会いって、確かにありますね。「こんなものをつくりたい」と思っていると、材料のほうから寄ってくることもある。

岸本 自分がつくるタイミングと、壊されるタイミングが、不思議とうまく合うことがよくありますよね。それだけに、古材をたくさんストックするようなことがないんです。

プーライエにて

寸法体系が確立した木材古材も意外にうまく納まる

——さて、次は東京都東村山市にある鯨井さんの自邸「プーライエ」を訪ねています。大学卒業と前後して、鯨井さんが自力建設を始めたプーライエも、古材でできた住宅ですね。

鯨井 そう、譲ってもらったものばかりです(笑)。材料の出所は、東京・福生にあった戦後の米軍キャンプの住宅、千葉にあった叔母の商家の古い蔵、緑のあった近所の農家などです。主な通し柱や梁は、1875(明治8)年に建てられた近所の農家の古材を使いました。

岸本 更地からの建築ですか？

鯨井 偶然の出会いがあり、新しい造成地の

高台を購入しました。地盤の不安定な盛り土ではなく、切土の土地です。遠く西には富士山、すぐ東の正面に、のちに宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」(1988年)で有名になる八国山を望む土地です。

最初に建てたのは、小さな2階建てです。敷地内に作業小屋を建てて、古民家の太い丸太の棟木を五角形に削ったり、蔵の床下にストックされていた板をうづくりしたりしました。その他の材は、米軍住宅から出たものです。材の具合や寸法を見ながら、構造から仕上げまでの使い方を考えていきました。外壁は、製材所で耳を落とした1石(1尺×1尺×10尺)の材を下見板風に張ってクレオソートで仕上げました。しかし、幅が1尺もあり不揃いな材はあばれてしまいました。屋根は米軍住宅の古い赤いスレート瓦でしたが、外壁とともに1985年の増築時に全面的に更新しています。

古材は、どこにどう使うかという「見立て」が大切です。長さや幅や太さを見て、どこに納まるかななどを考えておいても、実際の施工段階になると、「本当に足りるかな」と、少しハラハラしますけどね。

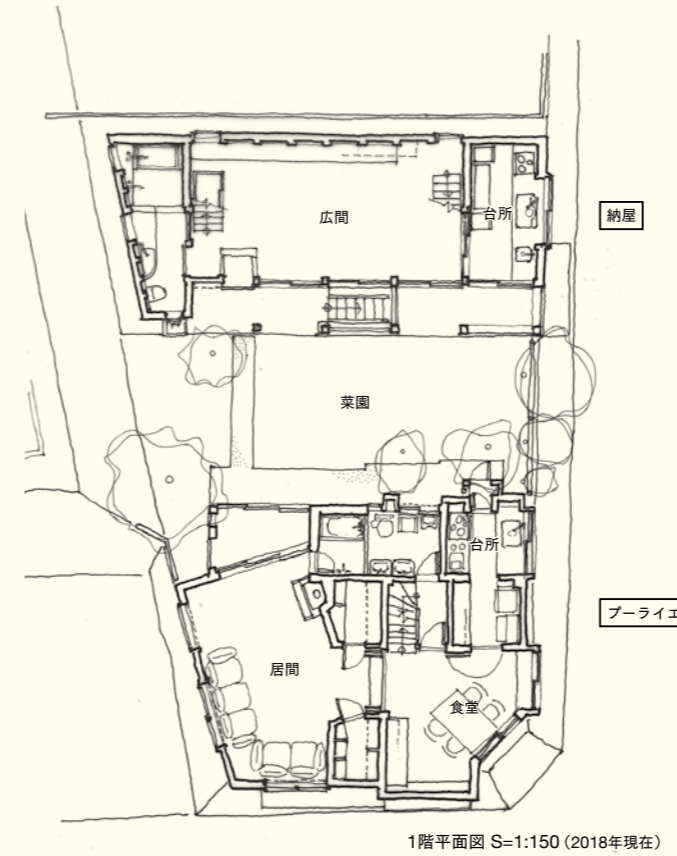
岸本 ハラハラしますよね。でも、意外にうまく納まるんですよね。きっと木造には基本的な寸法体系があるからでしょう。運んだり組み立てたりするのに適した寸法で体系化されています。だから、古材を再利用しても、そんなにおかしなことは起こらない。僕が最初に手がけた住宅「鯨の家」(2004)は、大正期の商家の移築でしたが、そのことを実感しました。

自分の手でつくること 確かな何かが伝わる

岸本 そもそもどうして自力で家を建てようと



1



1階平面図 S=1:150 (2018年現在)

- 1 1985年に増築した広間。敷地の形状に合わせて不整形なプランにしている
- 2 玄関から1階へと上がる階段の途中には、土地造成時の大谷石を既存のまま見せた箇所もある
- 3 2階への階段は、千葉県にあった叔母の古い土蔵から譲ってもらったもの
- 4 ドアに使ったスギ材は葦の床下にストックされていたもの。木挽きした大鋸の跡が残る
- 5 増築時、人工軽量骨材「メサライト」と耐火セメントを使ってつくった暖炉
- 6 納屋の2階には、鯨井氏のもとに集まった大工道具などが置かれている。写真奥は茶室、背後には蕎麦打ち部屋がある



2



3



4



5



6



納屋から見たブライエ。正面の建物の右側が1985年の増築部分。屋根に炉を切った空間がある

にしようと思ったんです。当時、世の中はどんどん便利になって、人の手を必要としなくなり始めていました。そうした現実のなかで最も確かなのは、「手のことばを残すこと」だろうと。一歩でもいいから確かなことに踏み出して、メッセージを発信すれば、何かが伝わるかもしれないと思い、自力建設を宣言しました。

岸本さんはなぜ設計ではなく、つくる立場へ？
岸本 僕も鯨井さんと共通するところがあるかもしれません。大学に入ってしばらくしたら建築がつまらなくなったんです。課題をやっても、自分でつくる手応えが感じられない。そんななかで久しぶりに面白くなったのが、フランスの建築家、ジャン・ブルーヴェ（1901-1984）でした。鉄工所で生まれ育ち、自分でデザインしてつくった建築家です。ただ、彼はもう亡くなっていたので、弟子入りするわけにもいかない。それで日本のジャン・ブルーヴェの

ような人を探そうちに、大工棟梁の田中文男（1932-2010）に行き着きました。

なので、伝統建築や木が好きというスタートではないんです。建築雑誌にあるような観念的なものではない建築をやりたい、自分でつくるんだ、という気持ちがあったのだと思います。

——鯨井さんや岸本さんのように、設計だけでなく、施工まで自分の手でやりたいという人は、今の若手からも出てきていますか？

岸本 建築学科を出た20代、30代の若手のなかにも、自分でつくりたい人たちがけっこういます。ただ、明らかに僕とは違うという印象をもっています。デザインに凝る半面、施工精度や材料の質にはあまりこだわっていないように見えるんです。その背景には経済的な要因もあるのでしょうか。それはそれでよいと思う

昔の人たちは、身のまわりにある材を知り尽くして、
 適材適所で巧みに使いこなしてきました。
 これからの若い人たちも、もっと材に親しんで、
 手を触れ、材の言葉を聞いてほしいですね——鯨井

半面、良質な材料と、その扱い方が忘れられていくことには不安を覚えます。

鯨井 昔の人たちは、身のまわりにある材を知り尽くして、適材適所で巧みに使いこなしてきました。自分の手を動かして直接、材と対話していたからです。これからの若い人たちも、家具でも何でもよいから、もっと材に親しんで、手を触れ、材の言葉を聞いてほしいですね。

- 01 日本橋倶楽部は1890年に設立された社交クラブ。日本橋と関りの深い実業家などで構成される。1955年完成の「日本橋倶楽部ビル」が再開発に伴い解体。現在は、跡地に2014年に開業した商業施設「コド室町3」に入居する。
- 02 Sigfried Giedion, *The Eternal Present: The Beginnings of Art*, Oxford University Press, 1962/日本語版：ジークフリート・ギーディオン著、江上波夫+木村重信訳「永遠の現在——美術の起源」東京大学出版会、1968

松浦隆幸 まつうら・たかゆき
 編集者、ライター/1966年東京都生まれ。1990年、東京理科大学工学部建築学科卒業後、日経BP社入社（日経アーキテクチャ記者）。1994年、退社。農業生活などを経て、2005年に編集事務所オン・ザ・ロードを設立し、現在に至る。

思ったのですか？
鯨井 いつの時代でもそうですが、若い人というのは自分の存在について暴れるでしょう？ そのエネルギーをどこにもっていくか。

僕が若かった時代だと、理論武装するとか、コンペに挑むといった選択肢もありました。でも、そのような歴史観のなかで人間のことを考えたとき、「人の手」⁰²だけは失わないよう



戦後建築コンペを振り返る | 03 平和記念公園

軸線の可能性を引き出した 「非凡」な案が1等に

文 豊川斎赫

広島に原子爆弾が投下された8月6日に、平和記念式典が催される平和記念公園。その案は1949年に行われたコンペで選ばれたもの。ピロティの本館からアーチを抜けて原爆ドームへと至る視覚的軸線を強烈に打ち出すアイデアは、審査員から「非凡」と評価され、1等を勝ち取る。そしてこれを設計した丹下健三を世界の建築界へと送り出すきっかけともなった。戦後日本建築のリスタートを飾ったコンペの意義を、『丹下健三——戦後日本の構想者』（岩波新書）の著者である豊川斎赫氏が振り返る。

オバマ大統領の広島演説

「科学のおかげで私たちは、海の向こうと通信もできれば、雲の上を飛んだり、病気を治したり宇宙空間を理解したりもできます。けれどそれと同じ知識が、いっそう効率的な殺人機械に変換されることも可能なのです。（中略）だからこそ私たちはこの場所に来ます。この都市の真ん中に私たちは立ち、原爆が落ちた瞬間を思い描こうと努めます」⁰¹

2016年5月27日、広島を訪れたオバマ・前アメリカ合衆国大統領は、世界に向けて核廃絶を呼びかける演説を行った。演説台は平和記念公園の中央を貫く南北の軸線上に据えられた。多くの報道写真は、演説中のオバマ大統領とその背後の原爆ドームを対比的に写していた。

戦後日米外交史の檜舞台となった「平和記念公園」は1949（昭和24）年に行われた公開設計競技によって選出された丹下健三の案が実現したものである。一方で、このコンペの運営や要項に強い影響をおよぼした施設として、「広島平和記念カトリック聖堂」（現・世界平和記念聖堂）と「震災記念堂」（現・東京都慰霊堂）が挙げられる。

1等を選ばなかった広島・カトリック聖堂コンペ

1945（昭和20）年8月6日、広島市 のぼりちょう 幟町 に建つ幟町天主教会は原爆投下によって倒壊した。同教会のラッサール神父は新しい教会を建設すべく奔走し、1948（昭和23）年に日本国内の設計者に広く開かれた設計コンペを開催した。審

査には建築界から堀口捨己、吉田鉄郎、村野藤吾、今井兼次が参加したが、1等案を選出しないばかりか、今井がこの聖堂の設計顧問に、村野藤吾が設計者に納まった。こうした不透明な審査に怒りの声をあげたのが、岸田日出刀・東大教授であった。岸田は、広島聖堂コンペで「1等の価値あるものなし」という理由で1等が選出されなかったことは、日本の建築競技設計の審査に最も悪い前例をつくったものであり、「多くの先輩方が苦心の末に樹立した1等必選の原則を無残に蹂躪した同審査員団の不見識と権威のなさに痛憤を感じる」⁰²と糾弾した。

この聖堂コンペの翌年、広島平和記念公園コンペが開催され、岸田がその審査に加わることになった。応募者らは「今度こそ1等案が選ばれる」と思ったに違いない。

東京の震災記念堂を訪問

敗戦直後、日本を占領統治した連合国軍最高司令官総司令部は、アメリカ・イギリス・オーストラリアの軍人らによって構成された。そのメンバーの1人で、広島市建築・都市計画顧問を務めたジャッピー氏（英国出身の建築家）は、原爆被災者の慰霊を目的として五重塔のような鐘楼を建てることを検討していた。当時、丹下健三は広島復興計画を担当していたが、ジャッピー氏から鐘楼の建設案について意見を求められると、強く反対したという。そして、ジャッピー氏とともに東京の震災記念堂を訪れ、単なる記念碑を建設しても市民から忘れられた存在になっている、と強調した。この慰霊堂は伊東忠太が設計

を担当し、1930（昭和5）年に竣工したもので、重厚な屋根表現が特徴的であった。

ジャッピー氏が日本を離れ、しばらくした後、「広島市平和記念公園及び記念館競技設計」（以下、広島コンペ）が公示され、世界的な平和会議のできるような集会場、原爆資料陳列室、研究室、図書室、食堂と、平和の祈りをささげる鐘を吊るすための塔を、この公園と一体として計画することが要求された。

広島平和記念公園コンペの進行

1949（昭和24）年7月25日、広島市役所にて広島コンペの予備監査が行われ、翌26日に本審査が行われた。審査員には、折下吉延、岸田日出刀、田村剛、伊東五郎、北村徳太郎、南薫造、飯田一実、伊藤豊、任都栗 司 が名を連ねた。とくに田村、折下、北村は造園の専門家、南は広島出身の洋画家、飯田は広島県土木部長、伊藤は広島商工会議所会頭、任都栗は広島市議会議長、伊東は建設省官僚であり、建築の専門家は岸田と伊東の2人であった。⁰³

このコンペには140点余りの応募案が集まったが、折下・北村・岸田の3審査員による予備監査によって、約40点に絞られた。本審査当日、南審査員が病気のため欠席したものの、他の審査員は全員出席し、折下審査員が審査委員長に選出された。その際、予備監査で落選した案も再度見直しを行い、2、3案を本審査にまわすことに決めている。

その後、一次審査が行われ、予備監査通過案を慎重に比較検討し、合議のうえで16点にまで

広島市平和記念公園及び記念館競技設計の概要

主催者 広島市	日程 公募 1949年5月20日～7月20日	田村 剛（林学博士） 南 薫造（画家） 任都栗 司（広島市議会議長）	出典 ・吉田研介＋建築設計競技選集編集グループ（編集）『建築設計競技選集』メイセイ出版、1995 ・『公園緑地』第12巻 第3号、日本公園緑地協会、1950 ・『建築と社会』9月号、日本建築学会、1949
賞および賞金 主席7万円 1案 次席5万円 1案 3席3万円 1案 選外佳作1万円 5案	予備監査 1949年7月25日	応募状況 応募数 140余案	
	本審査 1949年7月26日	入賞者 主席 丹下健三（協同者：浅田 孝、大谷幸夫ほか）	
コンペ実施年	審査委員 ※（ ）内はコンペ時の肩書き 折下吉延（審査委員長／公園緑地協会理事） 飯田一実（広島県土木部長） 伊東五郎（建設省建築局長） 伊藤 豊（広島商工会議所会頭） 岸田日出刀（東京大学教授） 北村徳太郎（建設省施設課長）	次席 山下寿郎	
		3席 荒井龍三	
		ほかに選外佳作5案	



【写真：西日本写真】

広島平和記念資料館

竣工年

1955

絞られた。この後、岸田の提案により、16点中から各自最善と思われる3案の記入投票が行われ、そこで残った8案について、審査員らは忌憚のない議論を交わし、各自最善と認める1案を記入投票している。この結果、1位に4票、他は各1票となり、審査員の総数が6名であったため、自動的に1位が選出された。

その後、2等を決めるべく、残る7案について1等選出と同じ方法で投票し、4票を集めた案を2等とした。同様に残る6案についても投票が行われ、3票を獲得した案が3等に選出された。選外佳作については、一次審査に残った40数点を対象として、合議のうえで5案が選出された。

一方で、東京で受け付けた応募案のうち、板や額面などに貼り付けた図案が5点あり、丸めて携行できず審査会場に未着だったため、26

竣工建物概要

所在地 | 広島市中区中島町1-2

構造 | 鉄筋コンクリート造

規模 | 地上2階

延床面積 | 7,424.1㎡

設計 | 丹下健三研究室 / 丹下健三、浅田 孝、大谷幸夫ほか

施工 | 大林組

日の審査は仮審査ということとし、5点到着のうえ改めて最後の審査を行う運びとなった。当該5点は28日朝到着し、伊藤・田村両委員はすでに広島を離れたあとだったが、あらかじめ全権委任を受けていたので、残りの審査員全員が出席して当該5点を仮審査済みの諸案と慎重に比較した。そのうち1案は3等の価値ありと認めて仮審査の際に3等であったものを選外佳作とし、さらに他の1案を選外佳作とした。この結果、仮審査の際に選外佳作だったもの2案が除外された。

優秀案の比較 軸の取り方とアーチ表現

1等に選ばれた丹下健三案は、敷地の外に位置する原爆ドーム(元・産業奨励館)を起点として、敷

地南端を東西に区切る100m道路に直交する垂線をおろし、100m道路沿いに3つの施設を併置させている。審査員である岸田は、このような配置により敷地奥まで車路が不要となり、公園としての落ち着きが確保できる、と評価している。また、建物群がピロティ形式を採用することで開放的な視界が得られ、敷地中央に虹のような大きな記念アーチを架けることで、原爆ドームを望むビスタを形成する点を「非凡」と賞賛した。

2等に選ばれた山下寿郎案は、1等案と同様に軸線を活用するものの、敷地の側面を流れる元安川の河中に記念塔を建て、敷地内の記念館と対置させている。広島は水の豊かな都市であり、敷地周辺の市街地から遮断された別天地を目指すランドスケープを形成している。岸田は、記念館が100m道路とあまり関係をも

主席案

丹下健三案

たんげ・けんぞう | コンペ当時、35歳 / 1913年大阪府堺市生まれ。1938年、東京帝国大学建築学科卒業。前川男建築設計事務所勤務を経て、1946年、同大学大学院を卒業。1961年、丹下健三都市・建築設計事務所を設立。作品に、「広島平和記念資料館本館(旧・広島平和会館原爆記念陳列館)」(1952)、「香川県庁舎」(1958)、「東京カテドラル聖マリア大聖堂」(1964)、「国立代々木競技場(旧・国立屋内総合競技場)」(1964)、「山梨文化会館」(1966)、「東京都庁舎」(1991)など。

岸田日出刀による入選諸案評より抜粋

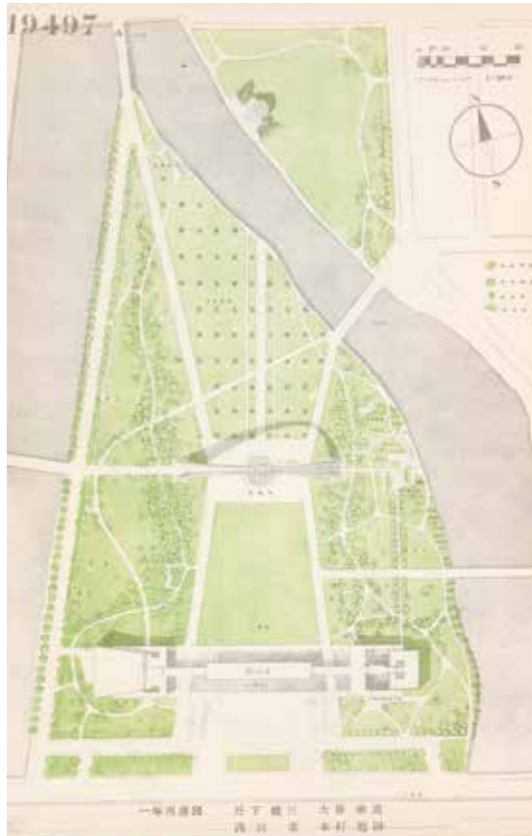
- ・この種の一団地の配置計画に当っては、まず其軸をどうするかが、基本的な問題のひとつで極めて重要である。そしてこの軸の正しい取方は周囲の都市計画的諸要素との関連において決定さるべきものであり、この点本案は巧みな解決案を提示している。
- ・百^{メートル}米道路に面する敷地境界線の中心とこの元産業奨励館とをつなぐと、それは百^{メートル}米道路と略直角をなす。この線を主軸として諸種の建造物や園内諸施設を配置計画したことに一等案のまず大きな特徴と長所がみられる。

- ・横に長い二階建の平和記念館の中央部分は開いた列柱廊となっているから、百^{メートル}米街路側から園内は遠く広く見通せるようになっており、中心軸上に配された広闊の広場を越して、公園略中央に虹のような巨大な記念アーチが建つ。拱頂には五つの平和の鐘が吊ってあるが、このアーチを越して川越しに遠く元産業奨励館の絵画的な残骸を望むヴィスタの効果をねらった、本案の計画はなかなか非凡である。

(「建築と社会」日本建築協会、昭和24年9月発行、51頁。原文は旧字体・旧仮名遣い)



鳥瞰図【所蔵：広島市公文書館】



平面図【出典：『公園緑地』第12巻 第3号、日本公園緑地協会、1950】

たず、記念塔の先に展開されるであろう密集市街地の様子を指摘し、記念公園が都市の中で果たすべき役割が深く考慮されていない、と指摘する。

3等に選ばれた荒井龍三案は、敷地奥深くに記念館を配する案が多い中で、よくまとまった案であった。しかし、この案は敷地奥まで車路を導入する必要があり、公園としての落ち着きが確保できず、1等案と同様に記念アーチを用いていたが、1等案ほどの視覚的効果が期待できなかった。岸田は、施設・アーチ・広場の配置

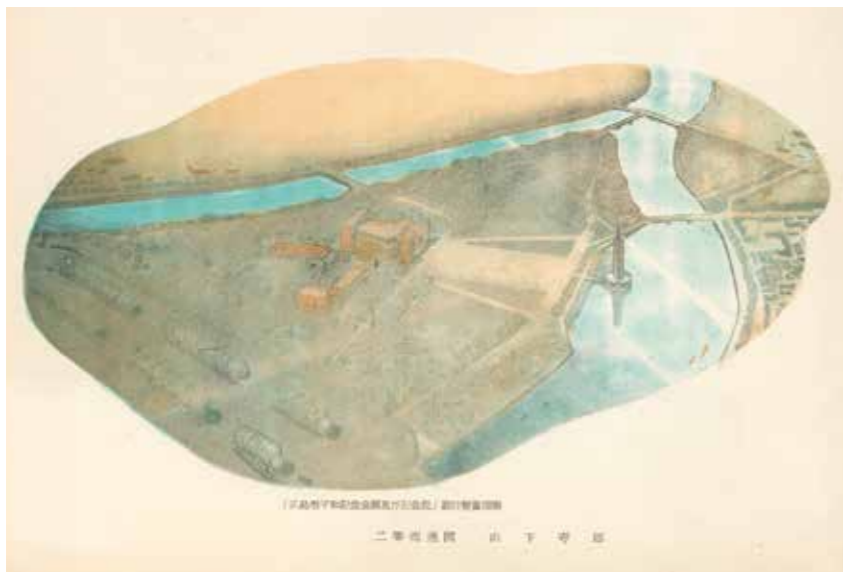
が100m道路に対して斜めに配されている点に首を傾げ、現地視察が難しかったことはやむを得ないとしても、敷地周辺コンテクストへの配慮が不十分と判断され、配置計画に難色を示した。

岸田はコンペ締め切り前から、エーロ・サーリネンのジェファーソン記念碑に影響を受けた案が寄せられることを予期していた。というのも、コンペ前年の1948(昭和23)年4月に“Architectural Record”誌にサーリネンのシンボリックなアーチ案が掲載されていたためである。岸田は記念アーチを盛り込んだコンペ応募

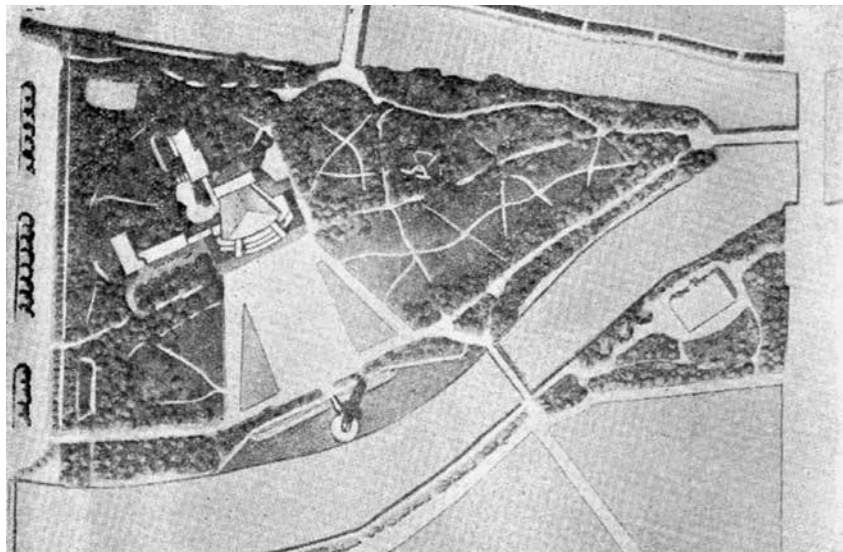
案を前にして動揺したものの、記念アーチを建てることはオベリスクを建てる類と見なせば、こうした案が1等に値しないとも主張できない、と振り返っている。⁰⁴

一方で、丹下自身は自らの案を説明するに当たって、「平和は自然からも神からも与えられるものではなく、人々が実践的に創り出してゆくもの」と定義づけし、広島平和記念公園を「平和を創り出すための工場」と位置づけていた。また、南北の軸線に貫かれた計画の概要を4つの基本的な施設の配置(記念館-広場-祈りの

次席案	
<h2>山下寿郎案</h2>	<p>やました・としろう コンペ当時、61歳/1888年山形県米沢市生まれ。1912年、東京帝国大学工科大学建築学科卒業。三菱合資会社、芝浦製作所、三井合名会社勤務を経て、1928年、山下寿郎建築事務所（現・山下設計）を設立。1920-1948年、東京帝国大学で講師を務める。日本建築士会連合会理事、日本建築設計監理協会会長などを歴任。作品に、「丸石ビルディング」（1931）、「霞が関ビルディング」（1968）、「NHK放送センター」（1973）など。</p>



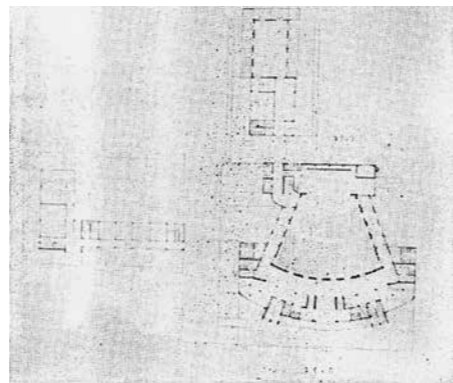
パース【出典：『公園緑地』第12巻 第3号、日本公園緑地協会、1950】



透視図【出典：『建築雑誌』第64巻 第756号、日本建築学会、1949】

岸田日出刀による入選諸案評より抜粋

- ・本案の特徴は、記念館と記念塔をつなぐ軸のとり方にみられる。
- ・記念塔を元安川の河流中に建て、この点から河岸に直角の線を引いてそれを軸とし、この軸上に広場と記念館を配しただけのものである。
- ・作者はおそらくかくすることによって意識的に公園と主要街路とを遮断し、他の市街地と別天地をなす隔離された幽遠の一廓を形成しようとしたものと思う。
- ・広島は水の豊かな都市である。この水を公園と関連してより効果的に活かそうとして、記念塔を河流の中に建て、このあたりを建築的な施設の中心にしたのは本案の良い特徴のひとつである。
- ・これほど重点が置かれたこの一廓の対岸は、現在都市計画では河沿いであまり広くない道路に面して、じかに家屋の櫛比が予想される普通の市街地住宅地区なのである。
- ・本案の構想を十分に活かす為には、記念塔の建つ河流の対岸にもそれに相応するようかなり大きな広場なり緑地がある事が望ましい。
（『建築と社会』日本建築協会、昭和24年9月発行、51-52頁。原文は旧字体・旧仮名遣い）



平面図【出典：『建築雑誌』第64巻 第756号、日本建築学会、1949】

場所－原爆の遺骸）として簡潔に表現している。丹下案の配置の美しさは丹下の無駄のない説明と見事に呼応し、形と言葉のいずれもが明快な構造と力強さに裏打ちされていた。⁰⁵

海外でのコンペ評価と戦前コンペとの連続性

丹下の1等案は海外の建築家の知るところとなり、CIAMから1951（昭和26）年開催の第8回ホッダストーン（ロンドン）大会への招待状が丹下の

元に届いた。戦前の日本近代建築が欧米の建築家に評価されることは極めて稀であり、例外として坂倉準三によるパリ万博日本館の金賞受賞が挙げられる。1950年代初頭、日本では民間人による自由な海外渡航が禁じられており、丹下はCIAMへの招聘を機に近代建築の実物を見学できるだけでなく、ル・コルビュジェやグロピウスといった近代建築の巨匠たちと会える、またとないチャンスを得たのである。

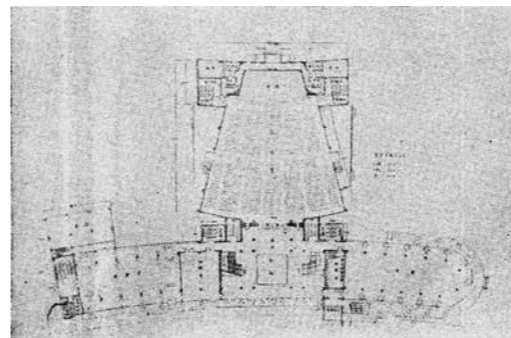
一方で、竣工後の「平和記念公園」を訪れた建築家・堀口捨己は「丹下君のあれは脚で

すよ。昔はモニュメントがコーニスにあったのが、今度は下に来たのですよ」とコメントしている⁰⁶。一般にコーニスとは屋根の軒の出を指し、丹下が戦前の大東亜建設記念造営計画コンペ（1942）や日泰文化会館コンペ（1943）では切妻表現に施設デザインの重心を置いていたが、戦後の広島コンペではピロティにデザインの重心を移動させた点を指摘している。同様に、建築家・磯崎新は戦前の大連公会堂コンペにおける前川國男案と広島コンペの丹下案の関連性を指摘し、ともにピロティ形式をもった中心施設

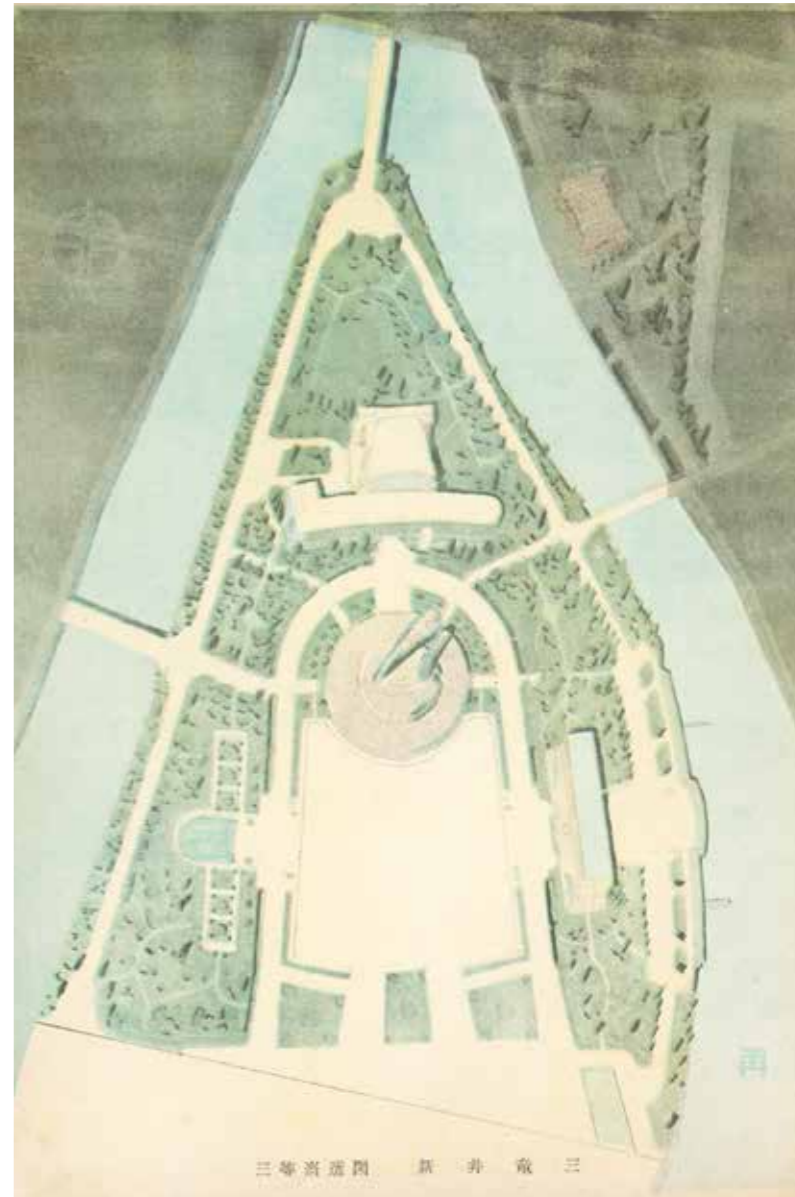
3席案	
<h2>荒井龍三案</h2>	<p>あらい・りゅうぞう コンペ当時、創和建築事務所勤務。1948年に開催された「広島平和記念カトリック聖堂」設計コンペでは準佳作。</p>

岸田日出刀による入選諸案評より抜粋

- ・記念館百^{メートル}米道路からみて敷地奥深く配する案はかなり多かったが、この種の案のうちでは、本案はよくまとまったものである。記念館をかく奥深く配すれば、自動車路を公園の奥深くまで導入しなければならぬので、公園として落つきがそれだけ害されることとなって好ましくない。
- ・記念館の前方に記念アーチがある。ジェファーソン記念碑と同じ構想であるのは、一等案の場合の様に積然としなが、同じ構想でも一等案の方がはるかに効果的である。
- ・アーチの前に広場があり、これら一連の施設の中心軸が百^{メートル}米道路とかなりの斜角をなしているのは、どういう根拠からであろうか。そこには何の意味もないように思えるが、元産業奨励館の建つ飛地がホンのつけたりに扱われているのも他の多くの案と同じように一考を要する。
（『建築と社会』日本建築協会、昭和24年9月発行、52頁。原文は旧字体・旧仮名遣い）



平面図【出典：『建築雑誌』第64巻 第756号、日本建築学会、1949】



透視図【出典：『公園緑地』第12巻 第3号、日本公園緑地協会、1950】

とその先のシンボリックな対象へのビスタを重視している点を指摘している。⁰⁷

総じて、丹下の広島コンペ案は、爆心地という固有性に対して「平和を生産する工場」という目標を明確化し、戦前のコンペ案やサリネンのアーチを活用しながら、軸線とピロティの可能性を存分に引き出して1等を勝ち取った。このことで丹下は世界デビューのチケットを手に入れた一方、「平和記念公園」は戦後日本の平和運動と平和外交の檜舞台となり得た、と考えられる。

- 01 柴田元幸（翻訳）「オバマ米大統領 広島演説」『SWITCH』Vol.34 No.7
<http://www.switch-pub.co.jp/obama/02.html>
- 02 岸田日出刀「論説：一等必選」『建築雑誌』1948.07
- 03 藁茂寿太郎「わが国における造園デザインコンペの変遷と特徴」『造園雑誌』no.52 (2) 1988.02、西本雅実「『平和記念都市ひろしま』知られざる記録映画」『広島市公文書館紀要』第28号 2015.06
- 04 岸田日出刀「広島市平和記念公園及び記念館競技設計當選圖案 審査評」『建築雑誌』1949.11
- 05 丹下健三「広島市平和記念公園及び記念館競技設計當選圖案 1等」『建築雑誌』1949.11
- 06 河合正一「特集：丹下健三研究 広島」『建築』1963.01
- 07 磯崎新インタビュー「戦後モダニズム建築の軌跡：丹下健三とその時代 第10回」『新建築』1998.11

豊川斎藤 とよかわ・さいかく
千葉大学准教授/1973年宮城県生まれ。1997年、東京大学工学部建築学科卒業。2000年、東京大学大学院工学系建築学専攻修了。2000-2005年、日本設計勤務。2007-2016年国立小山工業高等専門学校准教授。2017年より千葉大学工学部都市環境システム学科准教授。編著書に『磯崎新建築論集8 制作の現場』（岩波書店、2015）、「丹下健三」（岩波書店、2016）、「丹下健三と都市」（SD選書 鹿島出版会、2017）、「丹下健三 デザインの思考」（彰国社、2017）など。

新世代・事務所訪問 | 03 設計事務所 岡昇平

ナビゲーター | 門脇耕三

次世代のプロジェクトが胎動する、建築家のワークプレイスを訪問するシリーズ。そこで展開している活動の、あるいは生き方の独自のスタンスに触れながら、新しい建築の姿を捉えていく。

盛り上げず、巻き込まず、 日常からまちを変える。

香川県高松市の郊外にあるぼっしょうざんちやう仏生山町。

この小さなまちを、岡昇平は広大な沃野として捉えているようだ。このまちで岡が設計事務所を構えたその年に、父親が温泉を掘り当てたという、なかば冗談のようなできごとから、岡の物語は始まる。まずは温泉施設を設計し、そこで出会った仲間とたくらんで、次は宿泊所、その次はカフェ、古書店といった具合に、岡が設計や運営でかかわる場所はまちのなかに増殖していく。岡の日常は、温泉の番台に立ち、「編集室」と名付けた事務所で議論し、古書店を見まわり、その場その場で仕事をする、といった具合なのだ。増殖を続けているのは、場所だけでない。こちらでは家具職人、あちらでは洋服屋と、協働する仲間を増やし、現在の岡の事務所には、エッセイストと彫刻家が所属しているという。岡の生き方は、いまではほとんどまちの物語と化している。しかし岡自身は、単に自分の居場所を増やしているだけですよとはにかむ。正直、こんな建築家がいることに驚いた。岡がひろげているのは、小さなまちの可能性であり、まちに携わることの可能性なのだ。(門脇耕三)



岡昇平略歴および事務所変遷

1973年
香川県高松市仏生山町生まれ。家族は飲食業（宴会場）を営む

1997年
徳島大学工学部建設工学科卒業。土木を学ぶ

1999年
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了。在学中、ほとんど本を読んでいた

1999-2002年
みかんぐみ勤務。住宅や商業施設等を担当する

2002年
仏生山に戻り、設計事務所岡昇平設立。実家の倉庫を仕事場にする

2005年
仏生山温泉設立。番台になる

2012年
まち全体を旅館に見立てて、「仏生山まちぐるみ旅館」の取組みを始める

現在
設計事務所岡昇平、仏生山温泉、仏生山まちぐるみ旅館、スペースシンタックス・ジャパン株式会社、こんぶ製作所、へちま文庫、緑側の編集室、ことでんおんせん、50m書店、電車図書館などをみんなで運営する

事務所概要

所在地 | 香川県高松市仏生山町のあたり

形態 | 設計業務は、仏生山温泉、へちま文庫、緑側の編集室を主なワークプレイスとしつつ、仏生山界隈であれば、どこで仕事してもいいことになっている

仏生山温泉

仏生山に住まう建築家・岡昇平氏の処女作であり、今も活動の拠点になっているのが「仏生山温泉」だ。父親が掘削した源泉を活用するため、2005年に開業。今ではすっかり仏生山の目玉となっている。岡氏はこの番台に立ったり、設計事務所のワークスペースとして活用したりしている。



1



2



3



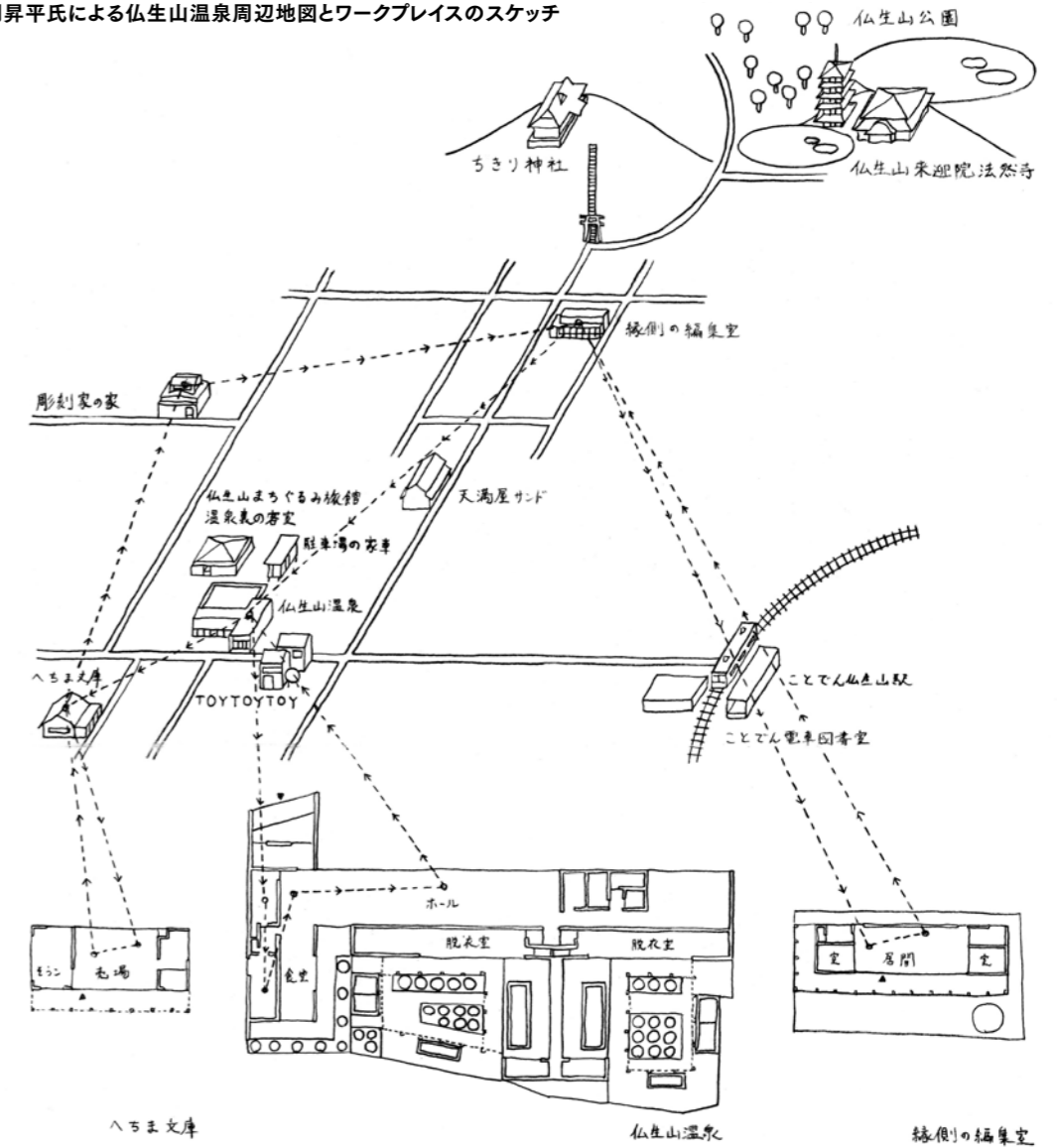
4



5

- 1 待ち合いスペース。ベンチと一体にデザインされた物販スペース（左）と、文庫本を一直線に並べた「50m書店」（右）
- 2 テラスに面した飲食スペース。手前のテーブルで岡氏がパソコン仕事をするかもしれない
- 3 毎朝岡氏が番台をつとめる受付カウンター
- 4 大きなエントランスが利用客を迎え入れる
- 5 浴場。露天風呂と脱衣室、室内浴場が中庭を囲う構成になっている

岡昇平氏による仏生山温泉周辺地図とワークプレイスのスケッチ



仏生山に散らばるさまざまな要素をつなぎ合わせ、ひとつの旅館として機能させられないだろうか——こうした見立てを、岡氏は「まちぐるみ旅館」と呼んでいる。実際に、2005年の「温泉」から始まり、宿、カフェ、古書店、雑貨店などができてきた。岡氏自身はそれらまちの店舗の設計や企画・運営、ときには単なるご近所としてかかわっている。

「まちぐるみ旅館」の基点となった仏生山温泉は、岡氏の活動拠点であり住まいである。日帰り温泉施設の部分は、大きな待ち合い空間に、回廊型の浴室が付いた平屋建築だ。事業計画から岡氏が考え、湯量と敷地から構成を導いた。家具職人の松村亮平氏と共同で製作した待ち合いスペースの家具では、仏生山温泉のお土産や、セレクトされた雑貨・衣類・パンなどとともに本が販売されており（湯船にも本の持ち込みが可能）、ゆつくりとした時間を過ごすことができる。

縁側の編集室

2007年に岡氏が設計した住宅が、建主の引越して空き家になったのを機に借り受け、「仏生山まちぐるみ旅館 縁側の客室」として2012年に活用を始めた。住宅の居住性をそのまま活かし、一棟貸しの滞在型施設として家具配置と用途の変更のみを行った。さらに現在は、事務所の共同代表でエッセイストの広瀬裕子氏の住まいになり、「縁側の編集室」としてイベントや展示などを行っている。また、設計事務所の打ち合わせ場所でもあり、毎日打ち合わせ時間になるとメンバーが集まり、終わるとまたそれぞれのワークスペースに戻ってゆく。



へちま文庫

熊野神社参道沿いの倉庫を改修した古書店。岡氏、松村氏、洋服販売の続木昭二氏の3人がオーナーとなり、古書・家具・雑貨などの販売とカフェ営業を行っている。設計事務所の機能も兼ねており、スタッフが設計をしながら店番をすることもある。建築は、波板のファサードをヒノキの皮に張り替え、床を合板で補強しスギ板を張った以外は壊れた箇所を補修と掃除をしたのみ。インテリアには松村氏デザインの家具が置かれ、古書の多くは手に取りやすいようにゆったり平置きされている。



対談

まちのひろがりのなかで暮らしと仕事を考える

岡昇平 × 門脇耕三

番台をしながら設計し、地域にかかわる

門脇 設計事務所としてはかなりユニークな仕事ぶりですが、日常の働き方について教えてください。

岡 家業である仏生山温泉の番台をしながら建築の設計をしています。それとともに地域にかかわるようなこともしていて、割合は時期によって変わります。

門脇 温泉の番台というのは？

岡 入口に立って「いらっしゃいませ」と声をかける仕事です(笑)。毎朝スタッフが掃除をしている間は僕がすることになっています。その後は大きな判断がない限りスタッフだけで業務が回るようになりました。

門脇 なるほど(笑)。地域とはどのようにかかわっているのでしょうか？

岡 仏生山では「まちぐるみ旅館」という、まちを旅館に見立てる取組みを進めています。僕自身にやにやししながら暮らすために、行きたいと思える場所がまちのなかにたくさんあると嬉しい、というのが始めた動機です。そうしたいいお店が新しくできるには普遍的なルールがあって、何らかの魅力があらかじめ存在する場所にしかできません。きれいな景色が見え

るとか、素敵なお店の隣であるとか、そうしたレベルでまちの魅力づくりを先にすることが大事です。旅館に見立てることでまちの魅力を高めて、新しいお店ができやすい状態に整えたいと考えています。

門脇 具体的な取組みを教えてください。

岡 最初に「縁側の客室(現・縁側の編集室)」(2012)という宿泊施設ができて、カフェ「仏生山天満屋サンド」(2014)、古書店「へちま文庫」(2014)、雑貨店「TOYTOYTOY」(2015)という順でお店が増えてきました。古書店の運営にはオーナーのひとりとして参加しています。

門脇 入浴、宿泊、食事と来て、その次が本というのは面白いですね。岡さんにとって本は特別なものですか？

岡 まちに本屋が1軒あるとそこから文化的な香りがひろがるんです。自分たちも本が好きで、本屋がほしいというわがままで、仲間と一緒に古書店をつくりました。

門脇 まちのなかに岡さんが行きたい場所をだんだんと増やし、番台と設計事務所の合間にいろいろなところに出没しては楽しんでいるということですね。

岡 そうなんです(笑)。にやにやししながら気の向くままに暮らしています。新しいお店ができるという新しい部屋ができたような感覚です。小さい

ころは家業である宴会場の宿直室で暮らしていて、生活の場はお店のなかでした。それが、高校生になると近くの祖父母の家に自分の部屋をもらって、生活の場所が外にひろがっていったんです。そういう育ち方をしてきたからなのか、暮らしは家のなかだけじゃなくて、まちのひろがりのなかにあると思っています。だからまちが充実していくのは素敵なことだと感じています。

物理学志望から土木を経て建築の道へ

門脇 さかのぼって学生時代の話聞かせてください。

岡 高校時代は寺田寅彦に憧れて物理の道に進みたいと思っていました。そのため、浪人をして旧帝大くらいには行こうと決めていたのですが、受験の経験をしておこうと一番近い徳島大学の工学部建設工学科に適当に丸をつけて受けたんです。受かった後、大学院受験という道もあることを知って、とりあえず入学しました。土木の勉強を始めたのはたまたまなんです。

土木の勉強をしていると、近接する分野に建築があることに気づきます。すると建築のほうが断然面白そうに思えてきて、4年生のとき

岡昇平氏の1日のスケジュール

8:00	起床
10:30	仏生山温泉の開店準備と番台の仕事
11:30	へちま文庫にカレーを食べに行く
12:30	彫刻家の家になんとなく寄ってみる
13:00	縁側の編集室で設計事務所の定例ミーティング
16:00	仏生山温泉のホールで設計の仕事
19:00	夕食
24:00	仏生山温泉閉店
3:00	就寝

「仏生山温泉」の宿直室で暮らしている。午前中は温泉の開店から始まり、午後は「へちま文庫」「縁側の編集室」など、まちのどこかでやられる定例ミーティングへ参加したり、設計の仕事をしている。夕食後には温泉の仕事や閉店作業を行い、24時閉店。午前3時には就寝。



に建築の大学院に行こうと思い立ちました。そこから受けられる大学院を探すと日本大学芸術学部（日芸）があることを知り、日芸の大学院に進むことにしました。

門脇 日芸での建築生活は面白かったですか？

岡 建築の総合的なところに惹かれました。さまざまなものを編集していくと、総合として建築ができるところが面白かったです。2年間ほとんど本を読んで過ごしたような大学院生活でした。

門脇 その後みかんぐみに進みますが、どのような経緯だったのでしょうか？

岡 みかんぐみのやさしい感じが好きで、大学院時代のオープンデスクから、修了と同時に入ってもらいました。

門脇 修業時代にはどんなことを学びましたか？

岡 ものづくりに対する姿勢ですね。技術的なことは本でも学べますが、真摯に取り組む姿を近くで見ることができたのが一番大きかったです。修業は大変だけど大きな学びがあり、現在の礎となっています。

門脇 3年の修業の後は地元で事務所を構える計画だったんですか？

岡 そうです。家業の宴会場を半分継いで、設計事務所と両方やっいてこうと考えていました。そうして地元に戻ってみると、父親が温泉を掘り当てて、お湯が湧いていたんです（笑）。

門脇 そんなことがあるんですね（笑）。

家業の新規事業としての「仏生山温泉」

岡 父親は小さいころから宴会場（昔は旅館業も）の風呂焚きを手伝っていて、薪をくべるのが大変だったみたいで、昔から温泉を掘りたかったそうです。のちに仏生山に高松クレーターが見つかったのを機に、家族の反対を押し切って掘削を始めたところ、すごく良質なお湯が出ました。

地元に戻ったタイミングで、新規事業というかたちで家業に携わることになりました。設計事務所としても温泉施設の設計という仕事がまずあったので、そういう意味では本当によかったと思います。

門脇 まったく違う場所での独立だと、協力事務所とのつながりもないし、苦労したんじゃないですか？

岡 そうですね。父の友人の設計事務所に協力をお願いして、構造面や設備面はサポートし

てもらいました。

門脇 待ち合いスペースには家具をはじめ素敵な設えがされていますが、こちらはご自身でデザインされたのですか？

岡 家具は家具設計製作の松村亮平さんと一緒に設計しています。当時は高松の「桜製作所」の職人で、会社に所属しながら家具設計を一緒にしてもらいました。現在も松村さんとは家具製作や内装の仕事を一緒にしています。

設計事務所岡昇平の組織構成

門脇 設計事務所岡昇平はとても個性的なメンバーで運営されていますね。あらためて事務所の構成を教えてください。

岡 代表者が4人とスタッフが1人の構成です。建築設計が私と田村博で、エッセイストの広瀬裕子と彫刻家の保井智貴の4人が代表です。設計事務所としては変わった構成ですが、建築設計というよりも「ものづくり」をしているととらえているので、建築設計として形を与える仕事は全体の2割くらいだと考えています。残りの8割はどんなジャンルでも同じで、その部分を共有できる人と一緒に仕事をしていきたいのです。

門脇 形が与えられる前の価値を追求するメンバーシップを重視しているのですね。どんな場をつくるべきかの議論が大部分で、図面を引いて形を与える作業はごく一部にすぎないと。

岡 打ち合わせに異分野の人が混じっている感覚はまったくなくて、同じ空間の議論ができていると思っています。さらにいえば、僕にとっては建築を設計することと温泉を運営することさえ同じだと思っていて、どちらも魅力づくりです。**門脇** 4人で議論することで拡張的な価値をつくっていくやり方はみかんぐみの影響もありますか？

岡 すごくあると思います。お互いを尊敬し合う関係がないと成り立たない気がしていて、みかんぐみもそうだったと思います。そういう環境で生まれるものはよりよいものになる可能性が高く、つくる側の楽しみや喜びも大きいように思います。

何をやるかより誰とやるか

門脇 設計事務所のほか「仏生山温泉」「こんぶ製作所」「へちま文庫」など、さまざまなチームをおもちですね。

岡 「設計事務所岡昇平」は個人で始めた事務所で、「仏生山温泉」は家業を引き継いだものですね。「こんぶ製作所」は家具の松村亮平さんと内装設計等を行うときの名前です。「へちま文庫」は同じく家具の松村さんと洋服屋の続木昭二さんと3人で古書店を運営するチームです。「縁側の編集室」では、広瀬とお話会や文章にかかわるイベントや展示などの企画運営を仏生山で行っています。「ことでん電車図書館」は、仏生山駅のホームを図書館に見立てるという試みのためのチームです。広瀬と松村さん、川上洋平さんと4人で行っています。川上さんは東京と仏生山の2拠点で暮らしと仕事をしているブックセクターです。

門脇 岡さんのお気に入りの場所に行くといろんな人がいて、その集まりからなんとなくプロジェクトが立ち上がって、そこを生産的な動きの拠点にしていくということでしょうか？

岡 名前は結果的についてくるようなもので、チームを先につくるところがあります。何をやるかより、誰とやるかが先にあるのかもしれない。社会的なことが前面に出ているわけではなく、自分たちが面白いかどうかで決めていきます。

門脇 なるほど。自分の居場所をつくっていくこと、仲間をつくっていくこと、プロジェクトが立ち上がること、それらが連動しているというわけですね。

岡 どれが先ということではなく、それらが揃ったときに始まるんだと思います。

ご近所さんの距離感で仕事をする

門脇 岡さんの場合、仕事の仕方とまちへのひろがり方に相関があるような気がします。まちに出ることで、チームができてプロジェクトになっていく。本来はボーダーレスなまちという不定形なひろがりか、チームの不定形さにもつながっている。

岡 そうかもしれません。心地のいい個と集団の関係があると思っています。仕事のメンバーもそうだし、まちのなかでのつながりのあり方もそうだと思います。まちぐるみ旅館はあくまでも見立てであって、お互いはそれぞれご近所さんとして存在していて、ご近所さん同士で連動企画が発生することもあるし、個々につながったり離れたりしながら、自分たちの心地いい距離で過ごしています。

門脇 それはいいですね。仕事仲間も組織体

仏生山にある岡氏の手がけた作品



仏生山天満屋サンド（2014／設計：設計事務所岡昇平）江戸時代から続く呉服店の半分をリノベーションした、サンドイッチを中心とするカフェ。建物が登録有形文化財であることから外観はそのままだが、昭和期に補強された鉄製の柱梁と江戸時代の木造の柱梁を残して現すことで、建物の履歴を隠さないように改修している



ことでん電車図書館（2016／設計：こんぶ製作所）香川県のローカル線「ことでん（高松琴平電気鉄道）」の仏生山駅のホームに本棚を設置し、図書館に見立てている。電車の待ち時間に自由に閲覧でき、本棚の端部が貯金箱のようになっていて、1冊あたり200円を投入すれば購入して持ち帰ることもできる

というよりはご近所さん？

岡 会社組織は人と人との距離をイコールにするものですよね。仲のいい人も悪い人も同僚という枠で同じ距離感にされますが、それはけっこうストレスが溜まることだと思います。枠組みをつくらないことで、より持続的なつながりをつくることのできるのではないかと思います。

門脇 事務所のメンバーの独特の距離感の謎が解けました。あれはつまりご近所さんの距離感だったんですね。

岡 そんなによそよそしかったですか（笑）。そんなつもりはなかったんですけど……。出張へ行くと家族旅行に間違われることもあるんですね（笑）。

居心地のいい場所をつくる

門脇 これからやっていきたいことはありますか？

岡 ずっとものづくりを続けていけたらいいですね。それは建築に限らず、魅力や価値も含めてのものづくりです。そのなかで人がどう心



TOYTOYTOY（2015／設計：こんぶ西）東日本大震災を機に仏生山で雑貨店を営むことを決めた店主一家のための店舗兼住宅で、岡氏と松村氏、施工のプロの小西康正氏による協働（こんぶ西）。2つの木造住宅を改修し、手前（左）をギャラリー兼作家の滞在スペース、奥（右）を雑貨店兼住居としている。中央の庭とデッキが2つをつなぐ構成



彫刻家の家（2017／設計：^{ふでん}螺鈿こんぶ）設計事務所の共同代表で彫刻家の保井智貴氏のアトリエ住居兼ゲストハウス。木造住宅の改修で、保井氏、松村氏、岡氏による協働（螺鈿こんぶ）。細かい小口材を敷き詰めた床と一体となったキッチンカウンターをはじめ、密度の高いものづくりで貫徹されている

地よく居られるのか、居心地を大切に考えていきたいです。

門脇 現在の温泉はとても消費的な場ですが、仏生山温泉には利用者を一方的に消費者にしない、自分たちも何かつづけてみたいと思わせるような仕立てがあるように感じられて、それはとても現代的なあり方だと思いました。

岡 おっしゃる通りですね。消費者を呼ぶのではなく、生産者とかかわりをもつことが大切だといつも話しています。まずは生産者がいて新しいコンテンツが生まれないとうまくいきません。

門脇 仏生山温泉の休憩室に文庫本が並べられていることも、利用者に行動を促すためのスパイスになっていますね。普通は銭湯で本は読まないわけですが、どうして本を置こうと思ったんですか？

岡 あるときお客さんが湯船で勝手に本を読み始めたのを見て、美しいなと思ったんです。それで風呂でどどん本を読んでもらうために古書を置き始めたのが最初です。人は居心地のいい場所でしか本を読みません。逆に人が本を読んでいると居心地のよい空気がそこから出る。本と居心地は相関が深いことに気が



温泉裏の客室（2015／設計：こんぶ西）仏生山温泉の裏手に建っていた某住宅メーカーのプレハブ工法住宅をリノベーションした、4つの個室と共用の水まわりからなる宿泊施設。各個室には塀に囲われた小さな庭が設けられ、開放的でありながらプライバシーの確保された落ち着いた空間となっている



駐車場の家車（2017／設計：設計事務所岡昇平）駐車場の車1台分に収まる大きさでつくられた、可動式の小屋建築のプロトタイプ。これをいくつか量産することで、駐車場でマルシェなどのイベントや物販、宿泊ができるよう考えられている

ついて、最近では本に対してより積極的になってきました。風呂で本を読むことについても改めて素敵なことだと感じています。

門脇 仏生山温泉の利用者はただ疲れを癒すだけじゃなくて、明日の自分に返ってくる何かをもって帰ることができる。それこそが岡さんの考える居心地のよさなのかもしれませんね。

門脇耕三 かどわき・こうぞう
建築家・明治大学専任講師／1977年神奈川県生まれ。2000年、東京都立大学工学部建築学科卒業。2001年、同大学院修士課程修了。首都大学東京助教などを経て、2012年より明治大学理工学部建築学科専任講師。博士（工学）。近著に、『「シェア」の思想／または愛と制度と空間の関係』（LIXIL出版、2015）など。

和田隆介 わだ・りゅうすけ
編集者／1984年静岡県生まれ。2008年、明治大学理工学部建築学科卒業。2010年千葉大学大学院修士課程修了。2010－2013年、新建築社勤務。JA編集部、a+u編集部、住宅特集編集部に在籍。2013年よりフリーランス。主なプロジェクトに、『LOG/OUT magazine』（RAD、2016より）の編集・出版事業など。

大規模木造建築は、集成材やジョイントの開発で少しずつその数を増やしてきた。

しかし都市に普及させるにはあと一歩足りない。それは普通の工法でつくること。

製材や板材を一般技術で架構してはじめて、都市に木造の風景が現れるのだ。

また、製材の考え方は大切だ。これまでは工業的生産に合わせ規格化を強いてきた製材である

が、木は元来生き物。山にある一つひとつの個性と付き合う技術が未来を拓く。—— 腰原幹雄

取材・文 | 高木伸哉



構造家の新発想 | 03 木造都市の復権 腰原幹雄

公共建築における木材利用の促進や、CLT（直交集成材）などの木質材料の利用開発における第一人者、腰原幹雄。いま彼が考える、木の可能性とは？

「表参道7プロジェクト」イメージCG。X方向はラーメン構造、Y方向は耐力壁で水平力を受ける耐力壁付きラーメン構造を組み合わせた「一方向ラーメン構造」を採用。木材で燃えしる層と燃え止まり層を構成する「燃えしる被覆型」耐火部材の採用によって、構造部材としての木材をそのまま内装材として採用することが可能になる
[図版提供: team Timberize]

こしはら・みきお
東京大学生産技術研究所教授/1968年千葉県生まれ。1992年、東京大学工学部建築学科卒業。2001年、同大学大学院博士課程修了、博士(工学)。構造設計集団〈SDG〉、東京大学大学院助手、生産技術研究所准教授を経て、2012年より現職。NPO法人 team Timberize理事長。

高層 都市木造建築

大径材と厚板のラーメン構造で つくる高層建築

「表参道7プロジェクト「30」

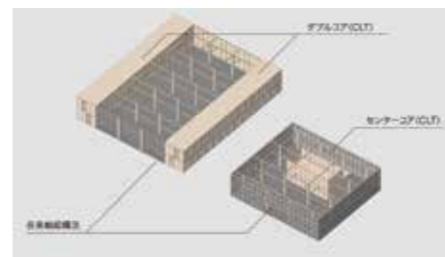
@東京都

設計：山田敏博、腰原幹雄 (team Timberize)



1

伝統木造建築を含めてこれまでの大規模木造建築は、大屋根の架構を採った建築であった。しかし高密度な都市における大規模木造建築は、多層化、高層化が必要とされる。これが都市に木造を復権させるための第一歩であり、基礎研究が始められている。



2



複雑な架構美が木造建築の魅力として、一品生産品として大屋根の木造建築が建てられてきましたが、都市木造では、屋根の建築から床・柱・壁の建築への発想の転換が必要になります。太い材による柱・梁構造、厚板による壁・床という基本的な構造システムになるのです。



3

長谷萬CLTプロジェクト
所在地 | 群馬県館林市
主要用途 | 事務所
設計 | ビルディングランドスケープ
構造設計 | 東京大学腰原研究室
主体構造 | 木造 (軸組+CLTコア)

均等に並ぶ太い柱梁の軸組構造は開放的な空間を実現し、厚板の壁によって構成されるコアは閉鎖的な空間ではあるが、耐震要素として機能する。両システムが共存して都市木造が成立する。

モジュールを重視した均質に並ぶ列柱は、伝統木造建築の木割に通じ、自由に配置可能な壁柱+スラブは、屋根形状を自由にした和小屋の仕組みに、構造+カーテンウォールの仕組みは、柱+建具の仕組みと重なる。都市木造の多層化、高層化のなかにも、伝統的な木造空間の仕組みが継承されている。

単純な構造システムが、基本形を構築し、そこから差別化された魅力ある発展形が生まれる。このとき、経済性、合理性を目指した部材断面の規格化、標準的加工技術などの生産システムの整備が普及の手助けをすることは、戸建木造住宅あるいは鉄骨造ビルの生産システムが示してくれている。

八幡浜市立日土小学校
新西校舎
所在地 | 愛媛県八幡浜市
主要用途 | 小学校
設計 | 武智和臣、山内和也
構造設計 | 東京大学腰原研究室、桜設計集団
延床面積 | 663㎡
主体構造 | 木造 一部鉄骨造
竣工 | 2009年



4

- 1 表参道7プロジェクト「30」模型写真 [写真: 浅川 敏]
- 2 「長谷萬CLTプロジェクト」中層システム [CG提供: ビルディングランドスケープ]
- 3 「長谷萬CLTプロジェクト」モデル内観写真 [写真提供: ビルディングランドスケープ]
- 4 八幡浜市立日土小学校 新西校舎内観。松村正恒が設計し、中校舎と東校舎が国の重要文化財に指定されている「八幡浜市立日土小学校」の隣に新設された普通教室を付加するための建物。自由に配置された壁柱とジョイント梁の床を採用 [写真提供: 東京大学腰原研究室]

厚板の可能性

CLTの厚板架構の展開を考える

CLT(直交集成板)という新しい木質材料が注目を浴びている。厚板の新しい木質材料はどのような建築を可能にするのだろうか。

これまでの木造建築は、柱梁などの線材で構成されていました。これからは線材だけでなく面材も扱えるようになったのです。しかし、大きな木質厚板は、日本の長い木造建築の歴史のなかでも未知の木質材料です。こんなに大きくて厚い板を使用した木造建築は過去に存在しません。これまでの木造建築の概念だけでなく、新しい建築構造材料として捉えることも必要だと思えます。

鉄筋コンクリート造では、厚い板による構造システムとして、フラットスラブや折版などが実現している。工場生産された部材を組み立てる乾式工法としては、壁式プレキャストコンクリート構造がある。伝統木造建築から学ぶだけでなく、ほかの建築構造のなかにもヒントがあるはずである。未知の建築は、実現してはじめて理解することができる。

新しい建築材料は、とりあえず使ってみなければ問題点もよくわからない。考えすぎて手が止まるより、まずつくってみて考えることも重要です。大きな建築でなくても、小さい建築のなかで大きな建築に結びつく工法のアイデアを実現してみるようにしています。

現在、全国でCLTを用いたバス停、トイレなどの小規模な建築が実現している。構造形式も壁柱、フラットスラブ、薄肉ラーメン、三角形の壁といった小さい挑戦が積み重ねられている。こうした積み重ねが、線材と面材による木質構造のなかでの混構造にたどりつくのだろう。



小規模CLTプロジェクト模型。小さい建築で都市木造の構造システムを試行してみる[写真：吉田和生]

下馬の集合住宅@東京都世田谷区



1

主要用途 | 共同住宅・店舗
設計 | KUS一級建築士事務所
構造設計 | 東京大学腰原研究室、
桜設計集団、KAP建築士事務所

延床面積 | 372.15㎡
主体構造 | 木造
竣工 | 2013年



2

1 工事中(上)と、竣工後内観(下)。主体構造を木造とした耐火建築物の5階建て集合住宅。集成材の柱と厚いフラットスラブが建物の鉛直力を支え、外周を覆う木斜格子が水平力を負担している

2 外観。木斜格子の表情がすてきである
[写真1下・2：浅川 敏]

Café CLT@神戸市垂水区



主要用途 | 店舗
設計 | 内海 彩 (KUS)
構造設計 | 腰原幹雄+kplus
延床面積 | 41.6㎡

主体構造 | 木造軸組工法+CLT屋根(床)
竣工 | 2016年



CLT実験部材を再利用したカフェ。LVLのさらさら桁状の梁にCLTパネルを載せた観客席のような構造体の特徴。CLTの屋根もテラス席として利用される[写真：浅川 敏]

INSPIRATION | 構造家のリスペクト

発想の原点がここにある。構造家がリスペクトする歴史的建造物のひとつ

近代建築と木造の親和性

[バルセロナ・パビリオン]

@スペイン

設計：ミース・ファン・デル・ローエ

竣工：1929年(1986年復元)



1

構造家はあらためて近代建築に着目する。都市への拡張を孕んだ近代建築の原理は、木造と親和性が高い。鉄とコンクリートを援用した原理であるが、床をラーメンが支える架構は木造在来工法とも親和性があるのだ。

柱と壁と屋根、線材と面材が直交座標系に配置されるという単純な組合せで空間が構成されています。本来、建築空間は、これで十分なのではないでしょうか。面材の壁による空間の仕切りと線材の柱による空間のアクセント、あとは水平な屋根(床)、これらの構成要素は、木造軸組工法住宅と同じです。象徴的な独立柱も十字型断面ですが、特別な断面の型钢を新たにつくって

るわけではありません。既存のL型アングル材を4本組み合わせることによって形成している。一般的に大量に流通している材を工夫しながら組み合わせる要求機能を満足させる。これは、小断面の住宅用流通製材を組み合わせる現在の低コスト木造の考え方と同じです。流通規格材、少品種大量生産の仕組みからでも魅力的な建築を生み出すことが可能です。さらに、こうした既存の基本技術の構成に現代の新しいCNC、3Dプリンタといった多品種少量生産の仕組みを追加することができれば、魅力的な建築が生まれるのではないのでしょうか。



2

1 「バルセロナ・パビリオン」外観[写真：染谷正弘]
2 ミース・ファン・デル・ローエ「バルセロナ・パビリオン」(右)と「チューゲンハット邸」(左)の柱の部分レプリカ[所蔵：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻]

》》》》NEXT | 構造家の未来発想

これから具現化していく、まだ見ぬ未来の新構造

木材の個性を活かす

被害木を含めた多様な木材を活用する構造

木は生き物だ。山の木1本1本に個性がある。これを旧来は工業化生産方法に合わせて、極力規格化しようとしてきた。規格に合わないものは廃棄される。しかしこれからは木の個性に合わせて、生産方法が多様化されるべきだ。IT技術がそれを可能にする。

現代の住宅用製材は、和風住宅に使えるかどうかで木の価値が判断されています。真っ直ぐの柱や梁がどれだけ取れるかで木の価値が決まる。曲がっていたり、穴が開いているものはじかれる。昔の民家は木を1本ずつ吟味し、現場に合わせて加工し、湿式で床壁をつくってきました。根曲がりなどの個性的な木も積極的に使われました。ところが在来工法がより効率化され工業化された結果、構造モデルや機械の都合に合わせて、木材に規格化が求められてきたのです。建築に合

わせた木だけを使う。工業化を前に鉄やコンクリートと張り合って、より均質な性能を求めてきたのですね。それはそれで必要なことですが、しかし木は生きている。だから木の個性や事情に合わせて建築をつくるということをやっつけていかなければならないのではないかと思います。

たとえば溝腐れによる被害木は、正常部分だけ木取りしても、せっかくの大径材が細くなり手間がかかって割高となる。そこで腐朽部分を木の個性と見立てて幅広の板材に製材することが試みられた。腐朽部分の処理がデザインのポイントである。デザインは伊藤博之氏が担当し、腐朽でできた溝を金属の錫や樹脂で埋めたり、ブラシがけで仕上げたりすることなどが試みられた。

いま「山の在庫マップ」というものをつくりたいと考えています。木は自然材料なんだから、一つひとつ形が違う。それをそ

のまま構造体にしてみようと思いました。曲がった木、枝分かれした木を3Dスキャンして形状をデータ化。1本ずつ固有のパーツでも、いまのモデリング技術を使えば解析できるわけです。切り出す前の木の形状を、全部データ化できたら……。山にある生木の在庫マップが出来上がるのです。このビッグデータを使い、必要な材を検索することもできるでしょう。根曲がりの貴重な木だってすぐ見つかりますよ。いまのIT技術が、木との丁寧な付き合い方をまた復活させてくれるのです。いまの木造ブームは、山の環境や多様性の保全がモチベーションになっている側面が大きい。ならばそこから生まれる木材も多様であるべき。均質さを求めるよりむしろ、建築への多様な利用方法を開発すべきなのです。

被害木の活用

溝腐れ病の木を、腐朽した部分ごと幅広く板材として製材し、欠点を個性に変えてそのまま活用する方法。朽ちてきた溝の処理がまさにデザインの肝心なところ。そのひとつが溶融した錫で埋める方法だ。錫の融点は約232度と低いため、木を焦がさずに加工できる。陶器の金継ぎ同様の趣がある。また溝を透明な樹脂で埋める方法、埋めずにブラシがけで仕上げる方法なども試みられた。

サンプスギの家具

プロデューサー | 東京大学生産技術研究所 野城研究室 信太洋行
ディレクター | 東京大学生産技術研究所 腰原幹雄
デザイナー | 伊藤博之建築設計事務所+OFDA
完成 | 2007年

- 1 溝腐れ病の木材【写真：東京大学腰原研究室】
- 2 溝腐れ病の木材をカットした板材【写真：東京大学腰原研究室】
- 3 溝を錫で埋めた板材を使用したテーブル【写真：阿野太一】



1 2 3



間伐材の活用

小径や短長の材を積層させて構造壁をつくる方法を探る。



くかん実験棟

所在地 | 東京都目黒区
主要用途 | 研究所、展示場、休憩所
設計 | 平沼孝啓
構造設計 | 東京大学腰原研究室
延床面積 | 47.39㎡
主体構造 | 木造・木造ブロック積層構法(新工法)
竣工 | 2008年

間伐材のみによる建築の実現化を目指した試み。小さな木ブロックを隙間をあげながら積むことで一般的な組積造と異なる雰囲気をも出し出している。人力で建設可能な構法としての可能性もあわせもつ【写真：淺川 敏】

小径木の活用

小径木だけで架構し解体できる、繰り返し利用を探る。



エコサイトハウス

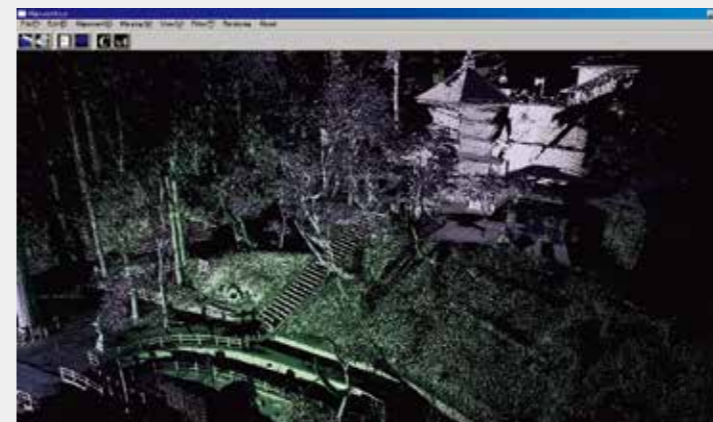
所在地 | 東京都
主要用途 | 工事事務所
開発 | 大林組、東京大学腰原研究室
設計監理 | 山田敏博(HUG)
構造設計 | 東京大学腰原研究室
延床面積 | 30.24㎡
主体構造 | 木造
竣工 | 2013年

木材を傷つけずに組立て・解体可能な金物と、1,200mmごとに柱を設ける多柱空間によるシステム工法化によって、用途の少なかった75角以下の間伐材小径木の構造材利用を実現した。重機を使わず、人の手だけで組立てが可能【写真：淺川 敏】

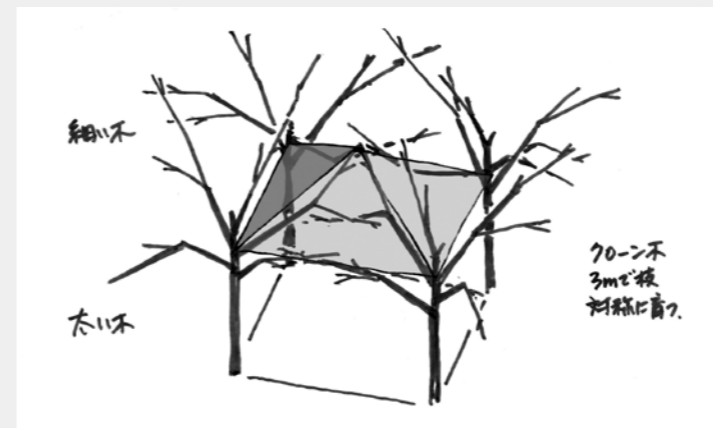
曲がり材／枝つき材

曲がり材、枝つき材をそのままの形状で利用する可能性。

3Dスキャンと、山まるごとのビッグデータによって、製材流通できる未来を探る。



1



2



3

- 1 森林の3Dスキャン画像。樹木の形状がそのまま3次元データとして設計に使用可能【画像提供：東京大学腰原研究室】
- 2 遺伝子操作によって対称に育つ木が4本育てば、幹が柱、枝が梁、葉が屋根になる
- 3 木の形状が柱に活かされた古民家の例。福井県坂井市にある重要文化財・坪川家では、頂部が二股に分かれた「股柱」が3本も使われている。短く切り落とした枝は側桁を支え、もう一方は上層桁を受けている【写真：藤塚光政、初出「家庭画報」(世界文化社)】

土木のランドスケープ | 03

とま た 苦田ダム

岡山県苦田郡

ナビゲーター・文 | 八馬 智

写真 | 新 良太

土木施設はその機能を果たすために、時として人を遠ざけてきたが、徐々にその巨大な体を開き、人に寄り添いはじめた。公共空間として、ランドスケープとして、人の手に復権された新しい土木の景色をみつけてみよう。

苦田ダムは、一級水系・吉井川の洪水調節、流水の正常な機能維持、灌漑用水、上水道・工業用水の確保、発電の目的をもって建設された多目的ダム。ダム空間を構成する要素は、自然（地形と植生）、ダム関連施設、水辺関連施設、橋梁やトンネルといった道路関連施設と実に多岐にわたる。建設によって地域が大きく様変わりするため、長期的な将来目標の検討が不可避となるが、ここではトータルコンセプトを確立したうえで、デザイン指針の作成と長期にわたる設計施工を見守れる環境・体制づくりがとられた





広大なダム空間に施された トータルデザイン

奥津湖湖畔の道路のドライブは、とても心地よい。連続する開放的な眺望とともに豊かな緑をたっぷり感じられ、橋やトンネルなどの構造物が良質なアクセントとなっている。もちろん車を止めて、整った造形の堤体の様子をさまざまな場所から眺めることもできる。その景観体験は、苦田ダムに関連する多様な構成要素のデザインを一貫してコントロールしていた仕組みに支えられている。

長期にわたる巨大事業におけるデザイン体制

一般的にダムの整備事業にかかる時間は極めて長く、その影響がおよぶ範囲も広大である。そしてさまざまな事業主体や管理主体が複雑にかかわりながらも、多くの関係者が頻繁に入れ替わる。地域の振興と流域の安定を図ることが大きな命題であるはずが、その拠り所となる景観に不可欠な一体性や継続性が損なわれやすい。

500戸を超える移転家屋が生じ、激しい建設反対運動が繰り返された苦田ダムでは、最初のボーリング調査から2005（平成17）年の完成までに39年の歳月を要した。そのなかで新しい地域環境の創造を目指す「ランドデザイン」

を実践するために、東京大学教授（当時）の篠原修を中心とした「環境デザイン委員会」が設置された。10年を超える長期にわたり合計34回も開催された委員会は、包括的なデザインコンセプトを堅持しながら、主にダム、水辺、橋梁、道路、植栽を担当するデザインチームを束ねるハブの役割を果たした。

新たな風景づくり

湖畔を通る道路はわずかに谷側にずらし、擁壁構造を併用しながら大きな切土の面が発生しないように調整され、長期的な視点から緑化がなされている。橋梁などの道路構造物は、「図」として景観の主役とするか、「地」として周辺環境に溶け込ませるかの位置付けを明確に示し、全体のコスト配分にもメリハリをつけたという。

堤体は全体のプロポーションが緻密に構成されつつ、細部の造形にも配慮が行き届いている。煩雑になりやすい機械室などの上屋を低くするなど、機能面から採用された「ラビリンス型自由越流式堤頂」が生み出す独特の形態が活かされている。そして、ダムや橋を眺めるための視点場が随所に用意されている。こうしたことから、「見る・見られる」関係が強く意識

されながら、さまざまな要素のデザインがなされていることがわかる。

関係の再構築の拠点

管理事務所に併設された資料室のほか、ゲート直上の展望室まで自由に行くことができるなど、堤体を体感できる場所が用意されている。さらに、施設見学の受け入れや奥津湖湖畔道路における各種のイベントが年間を通じて多数実施され、多くの来訪者がダム空間を体験している。

日本の国土整備は専門化や分業化が高度に進んだことで、総合的な見地から質を高め、いく姿勢が失われることも多い。苦田ダムはそのような状況に一石を投じること、「ランドデザイン」によって地域、流域、来訪者などの関係を接続し、再構築するための土壌を形成した先駆的な事例といえるだろう。

取材協力：国土交通省 中国地方整備局 苦田ダム管理所

八馬 智 はちま・さとし
千葉工業大学教授 / 1969年、千葉県生まれ。1993年、千葉大学工学部工業意匠学科卒業。1995年、同大学院修士課程を修了し、株式会社ドーコン（旧・北海道開発コンサルタント）に入社。2004年より千葉大学大学院助教。2012年より現職（創造工学部デザイン科学科）。博士（工学）。著書に『ヨーロッパのドボクを見に行こう』（自由国民社、2015）がある。



2

1 ダム貯水池として誕生した奥津湖全景。中央は草谷橋。ダム湖を一周する道路は、ダム湖やその周りの風景を形づくる重要な要素として、山肌を削る切土のり面が可能な限り小さくなるよう計画された



3

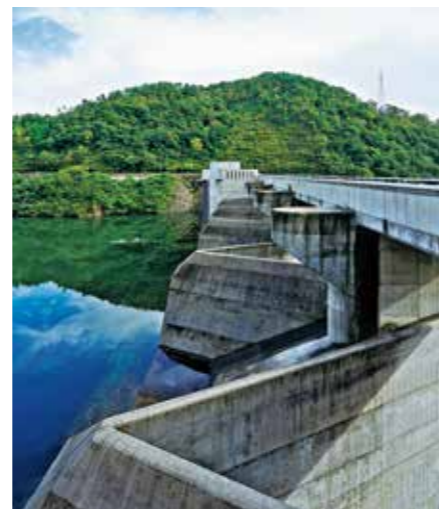


4

2 水位維持用放流設備の真上に設けられたガラス張りの見学室。誰でも自由に入出りできる
3 苦田大橋。苦田ダムでは、大小含めて約25橋が総合的にデザインされた。ダム湖の中央に位置し、中心的存在となる苦田大橋の検討期間は約6年にもおよんだ

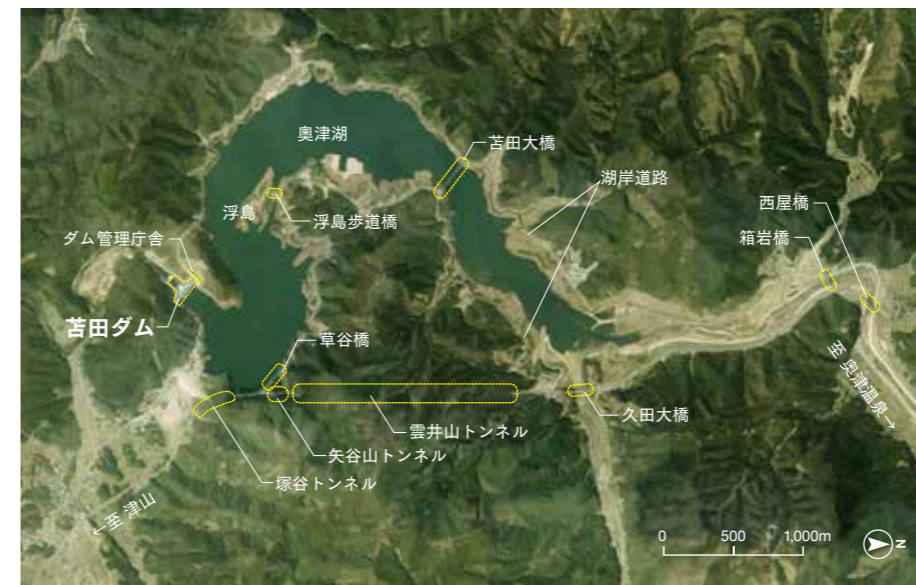


5



6

4 奥津湖湖畔に設けられた親水空間。奥津湖総合案内所「みずの郷奥津湖」からアプローチできる
5 水位の関係でできた浮島をつなぐ吊橋・浮島歩道橋
6 非常時に洪水をダムの上から流すラビリンス型自由越流式堤頂の独特な形状



苦田ダム ダム湖周辺全体位置図（写真は完成当時のもの）[写真提供：国土交通省 中国地方整備局 苦田ダム管理所]

苦田ダム概要

所在地 | 岡山県苦田郡鏡野町久田下原
堤高（高さ）| 74m / 堤頂長（長さ）| 225m
堤体積 | 約30万m³ / 集水面積 | 217.4km²
貯水池（奥津湖）の広さ | 約3.3km²
総貯水量 | 8,410万m³ / 洪水調節容量 | 5,000万m³
利水容量 | 2,810万m³
本体着工 | 1999年 / 完成年 | 2005年

事業者

国土交通省中国地方整備局苦田ダム工事事務所（現・苦田ダム管理所）

〈関係機関〉

苦田ダム環境デザイン検討委員会

トータルコンセプトの確立と、デザイン指導の作成を担当。長期にわたり設計施工を見守れる環境・体制をつくるため河川、植生、景観、色彩、建築ごとに、専門の学識経験者で構成

国土交通省中国地方整備局苦田ダム工事事務所

デザイン検討に対する条件提示、修正指示およびデザイン決定案に基づく設計・工事発注を担当

財団法人ダム水源地環境整備センター

デザイン検討委員会事務局ならびにデザインワーキングの統括を担当

渋谷キャスト

渋谷と原宿、青山をつなぐ結節点に建つ
多様な用途を兼ね備えたクリエイティブ活動の拠点

旧渋谷川遊歩道（キャットストリート）の起点に位置する、渋谷区の都営住宅「宮下町アパート」の跡地に、クリエイティブ活動の拠点「渋谷キャスト」が誕生した。若者やクリエイターが自然と集まり、独自の文化を育んできたこのエリアの空気感を継承しつつ、「WORK LIVE PLAY」を合言葉に、クリエイターが住み、働き、発信する機能を有した複合施設である。

建物は、「Echoes of Uniqueness（不揃いの調和）」をデザインコンセプトに、空間の多様な要素（形状・機能・素材）が、それぞれの個性を表しながらも共鳴し合い、まとまりのある全体像を織りなしている。施設デザインには現代的な感性をもつ複数のクリエイターを起用し、デザインプロセスにおいてもコンセプトを踏襲している。

3階から12階は、1フロア400坪を超えるフレキシブルで使いやすいオフィスフロアで、渋谷に多いIT系、デザイン、アパレルなどのクリエイティブ産業の集積を支えている。

長時間滞在するオフィスにおけるトイレは、身繕いや食後の歯磨き、手軽にリフレッシュできる空間など、さまざまな用途に対応できるよう使いやすさと快適性を追求した。また、各階には車椅子利用に配慮した広めトイレを設置し、ユニバーサルデザインに対応している。

洗面コーナーは鏡裏からの間接照明で柔らかい雰囲気を演出し、水ハネを軽減する形状のボウルや小物を置けるドライエリアを備えた洗面カウンターを採用。また、昼休みなど集中利用時の混雑緩和に配慮し、うがいにも便利な歯磨きコーナーを独立して設置した。女性用トイレには化粧直しに最適な、顔全体を照らすフロント照明付鏡を備えたパウダーコーナーも設けて快適に利用できる配慮がされている。



1



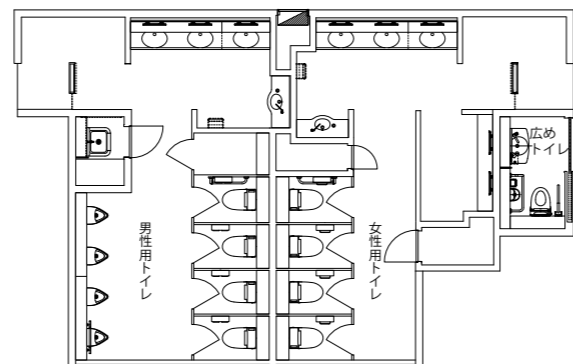
2

建築概要

名称 | 渋谷キャスト
所在地 | 東京都渋谷区渋谷1-23-12
竣工 | 2017年4月
施主 | 渋谷宮下町リアルティ（東京急行電鉄、大成建設、サッポロ不動産開発、東急建設）
設計 | 日本設計・大成建設共同企業体
施工 | 大成・東急建設共同企業体

LIXIL使用商品

【一般トイレ】
大便器 | 便器部：BC-K21PC、機能部：DV-K213GPM/FB-K-TU
小便器 | U-406RUC
洗面カウンター | NOSEL counter slant L-S54SW1
歯磨きボウル+水栓金具 | L-147+L-74+LF-98FV-Z3
大型リモコン | 男性用：CWA-254、女性用：CWA-116
【広めトイレ】
大便器+シャワートイレ | C-P12P+CW-PA11F-NECK-TU
洗面器 | L-275N
自動水栓一体型電気温水器 | EHMN-CA3S10-AM213CV1
水せっけん入れ | KF-24F
手洗器 | AWL-71U2AM (P)(100V)



平面図 S = 1:150



3



4



5



6



7



8

- 1 外観
- 2 シックな空間になじむモノクロのトイレサイン
- 3 男性用トイレ 洗面スペースと歯磨きコーナー
- 4 広めトイレ。各階にユニバーサルデザインに配慮した多機能トイレを設置している
- 5 男性用トイレ 小便器
- 6 男性用トイレ 大便器ブース
- 7 女性用トイレ パウダーコーナー。フロント照明付鏡と小物ロッカー（オプション）を設けている
- 8 女性用トイレ 洗面スペース

GINZA SIX

銀座六丁目の再開発プロジェクト
新たなランドマークとしての銀座エリア最大級の複合商業施設

2017年4月に中央通り沿い六丁目の新たなランドマークとして開業した「GINZA SIX」は、松坂屋銀座店跡地を含む街区と隣接街区の2つの街区を一体整備する大規模な再開発プロジェクトで、241の商業ブランドが集積する商業施設と、オフィス、文化・交流施設「二十五世観世左近記念観世能楽堂」などから構成された銀座エリア最大規模の複合施設として多くの人で賑わっている。

外観デザインの特徴が「ひさし」と「のれん」である。2つの街区をつなぎ広さやスケール感を演出する「ひさし」を全方向に向かって設置することで、建物全体を統一し、エリアのランドマークとしてどこから見ても認識できるようにしている。カーテンウォール上部と「ひさし」となる鋭角な金属部の間は、一段奥に下げることによってディテールに陰影を与え、奥行きを感じさせる設計となっている。またステンレスのヘアライン仕上げの「ひさし」には、周囲の景色が映り込み、1日の時間の経過や天候によって変化する表情豊かな外観をつくり出すとともに、夜は先端に取り付けたLEDのライン照明が建物全体の統一性を表現している。

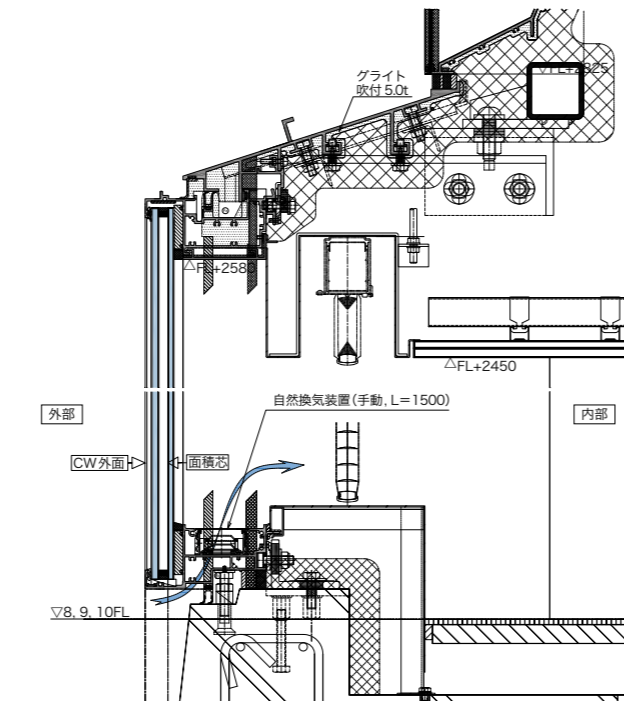
一方、低層部の商業施設の外装ファサードは、「のれん」をテーマに建物を縦方向に分節化して路地空間をつないだ。「のれん」の一部は、最新のデザインとやきもの素材を組み合わせたテラコッタで構成されている。テラコッタは釉薬を施していない素地と施釉した面の2面からなり、手作業により2,200ピースを制作し施工。ピースをランダムに設置することによって、日中は自然光を受けながら時間によって異なる表情を店内に映し出し、夜は店内の温かい光を銀座の中央通りから望むことができる。また流れる釉薬を採用することで、各ピースの表情が異なる個性的なファサードをつくり出している。



1



2



オフィスフロア部 断面図 S = 1:10

建築概要
名称 | GINZA SIX
所在地 | 東京都中央区銀座6-10-1
竣工 | 2017年1月
施主 | 銀座六丁目10地区市街地再開発組合
設計プロジェクトマネージャー | 森ビル、アール・アイ・エー
基本計画・基本設計 | 谷口建築設計研究所
実施設計・監理(施設全体) | 銀座六丁目地区市街地再開発計画設計共同体 (KAJIMA DESIGN、谷口建築設計研究所)
施工 | 鹿島建設 東京建築支店

LIXIL使用商品
カーテンウォール | オーダーメイドカーテンウォール
大型タイル・テラコッタ | 特注テラコッタ 鑄込み成形 施釉 セラミック II 類



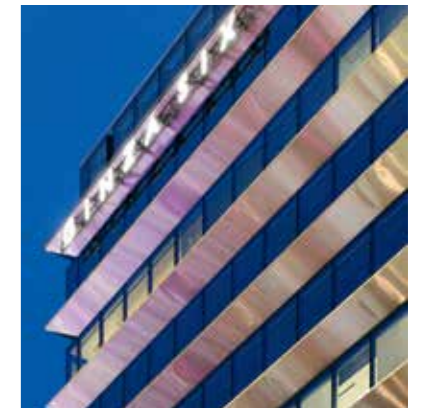
3



4



5



6

- 1 全景
- 2 屋上庭園
- 3 夜景
- 4 テラコッタ デイテール
- 5 テラコッタのファサード部 中景
- 6 「ひさし」のディテール(上)と、東面(下)。「ひさし」に周囲の景色が映り込む

多様化する働き方とワーカーに応える これからのトイレ空間のあり方

——インクルーシブなオフィスのトイレを目指して

文 | 石原雄太
(株) LIXIL マーケティング本部
セールス&マーケティング統括部
スペースプランニング部

オフィスワーカーとトイレの関係性

LIXILが実施した最新の意識調査⁰¹によれば、人々がオフィス環境について最も重視しているのがトイレです。空調よりも上位にあげた人が男女をあわせて85%、20代の女性では94%を占めます(グラフ1)。

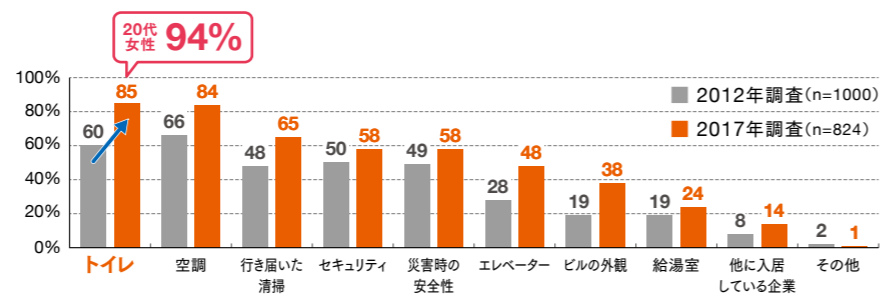
トイレは、人間の生理現象である排泄欲求を1日数回にわたって解消する空間ですが、オフィスの場合は不特定多数が使用することから、「清潔・清掃されている」ことが重視されます(グラフ2)。「オフィスのトイレが充実すると仕事の効率アップに影響するか」という問いに対して、男女あわせて77%の人が「影響する」と答えており、同じ設問で2012年に実施したアンケートのデータと比べて10ポイント以上増えていることも注目に値します(グラフ3)。つまり、オフィスのトイレ空間は、ワーカーに「やる気」を起こさせるポテンシャルを秘めているのではないのでしょうか。

多様化する働き方とオフィスへの対応

前述のアンケート結果によれば、歯を磨いたり、化粧直しをしたり、身だしなみを整えたりと排泄以外の目的でトイレを利用している人も多く、20代女性では31%が「ストレッチや体操をする」と回答しました。さらに、今回の調査で選択肢に追加した「インターネットの閲覧」が31%、「メール・SNSの閲覧・返信」が22%と上昇しており、スマホや携帯電話をチェックする人が増えているといえます(グラフ4)。このように、めいめいがさまざまな「用を足す」のが、現代のオフィスに付随したトイレといえます。

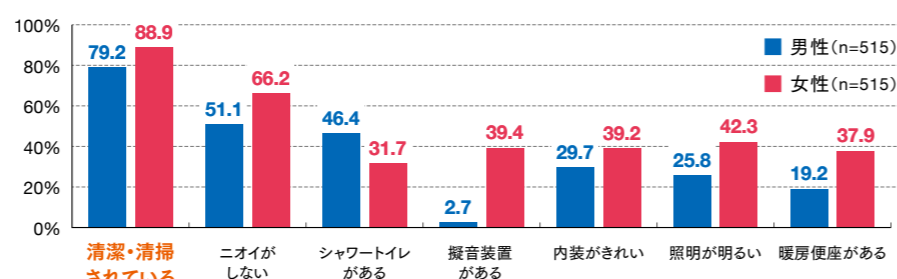
今回の調査では、内勤者の回答者の割合が男性で49%、女性では70%という差があるものの、仕事の合間にリフレッシュする場として、オフィスのトイレが利用されていることがわかりました。また、ICTの進化に伴うオフィス環境の変容——デスクの代わりにフリーアドレスが付与され、複数の職能のワーカーが出入りするオフィスが今後増えたとすれば、人の働き方そのものも多様化し、人と人とが顔を合す貴重なコミュニケーションの場のひとつとして、トイレ空間が重要な位置を

Q. オフィス環境で重視することは? (複数回答)



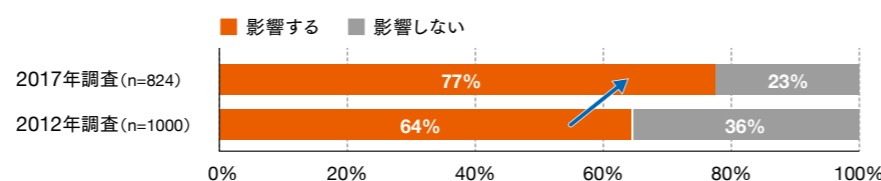
〔グラフ1〕オフィス環境での重視点

Q. トイレを利用するとき何を重視しますか? (複数回答)



〔グラフ2〕トイレを利用する際の重視点

Q. トイレが充実すると仕事の効率アップに影響しますか?



〔グラフ3〕トイレの充実度と仕事の効率アップとの関係

Q. オフィスのトイレ内で用を足す以外にすることは? (複数回答)



〔グラフ4〕用を足す以外にすること

占めていくと考えられます。

多様化するワーカーへの配慮

オフィス環境の変容には、女性と高齢者の就労を促進している国の政策が大きく影響します。出産を含めて育児の負担が大きいと言われている女性と、定年退職後の高齢者が安心して働くことができる環境を整えようとするならば、オフィスのトイレのデザインは必然となります。たとえば、商業施設の女性用トイレには授乳やオムツ交換のためのスペースが用意されていますが、オフィスで見かけることはほとんどなく、男性用トイレに至っては私は見たことがありません。

また、経済のグローバル化が進めば、外国人就労者の雇用も増えていきます。彼らとの習慣の違いは、トイレにも如実に現れますが⁰²、世界の人口の約1/4を占めるイスラム教徒の場合、トイレで用を足したあと、局部をトイレットペーパーで拭かず、水で洗浄して清めます。これには温水洗浄便座が有効ですが、操作の仕方がわからないとの声も多くありました。信仰による風習とは別に、使用済みのペーパーを便器に流さず、専用のゴミ箱に捨てる生活習慣が身に付いた外国人への配慮も必要になります。

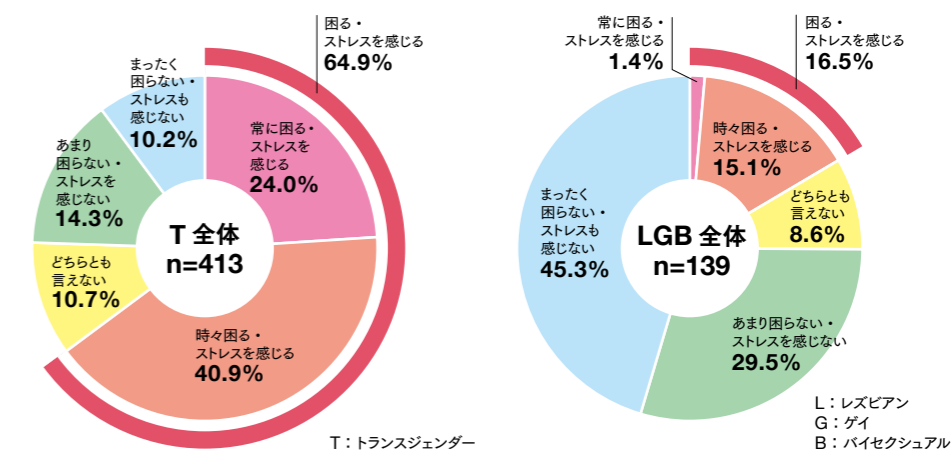
性的マイノリティへの配慮

本稿のはじめに、LIXIL調べのアンケート結果について述べ、男女比のパーセンテージも示しましたが、これまでの調査ではデータ上、浮かび上がってこなかった人々がいます。レズビアン (Lesbian)、ゲイ (Gay)、バイセクシュアル (Bisexual)、トランスジェンダー (Transgender) の英語の頭文字をとってLGBTと称される、性的マイノリティの人たちです。本稿では便宜上、これらの人々をLGBT当事者と呼称しますが、たった4つに分類できるはずもなく、非常にセンシティブなことです。本稿での説明も丁寧に行いたいと思います。

グラフ5は、性的マイノリティがいきいきと働ける職場づくりを支援するNPO団体と、LIXILとが共同で実施したアンケート結果の一部です⁰³。LGBT当事者、とくにトランスジェンダーにとって、職場を含むパブリックトイレが「リフレッシュ」にほど遠いことがわかります。

出生時の性別と性自認(心の性別)が不一致なトランスジェンダーの場合、性自認に沿った男女別トイレを使えないことや、外見から判断される不審な目で見られることによって、トイレを利用するという自然な生理的行動そのものがストレスと

Q. 職場や学校のトイレ利用で困る・ストレスを感じることはありますか?



〔グラフ5〕ストレスを感じている人の割合

なります。職場では男性として働いていても、身体が女性である場合、男性用トイレの個室を常に使うことを怪しむ同僚の目が気になるでしょう。仮にカミングアウトしても、出生時の性別を知っている同僚と、トイレという生理的な空間で顔を合わせづらさと、当事者の中には、尿意を覚えるたびにオフィスから出て、コンビニや隣のビルのトイレに走るといった人もいます。

だれもが選択可能な平等に開かれたトイレ

トランスジェンダーがトイレを気兼ねなく使うために、どのような建築的工夫、デザインの手法があるのでしょうか。

昨年の『新建築』5月号特別記事「公共空間における個人の自由を求めて」では、明治大学の門脇耕三先生監修のもと、複数の建築家とジェンダーニュートラル(性別不問)のトイレについて、さまざまなリアルに基づいた議論を行いました。これからのオフィスのあり方について考察しました。LGBT当事者を含めたワーカーがリフレッシュできる空間にもなりうる提案をいただきましたが、前述のアンケート結果によると、すべて男女共用になることに女性の拒否反応は強く、この結果を踏まえて、女性建築家の永山祐子さん(永山祐子建築設計)と再検討することになりました。再考した案は(図画1)、2つの個室群によるコーナー分けをし、中央の通路に面した部分は男女共用、それぞれの個室群の裏側に男性用・女性用トイレを配置することでトイレの選択性を高めたプランです。男女共用は多機能トイレやオストメイト用流し、オムツ交換台などの機能を持った個室にし、機能面による選択性も高め、男性

用・女性用を含めたすべての個室には手洗器と鏡を配置することで、個室内であらゆる行為を完結することができるようにしました。さらに中央に面した場所には大きなテーブルを置き、休憩が可能なコミュニケーションスペースとし、トイレとこのスペースをひとまとめにした「ウェルネススペース」という考え方を取り入れました。トイレの個室で増えつつあるスマホのチェックも、このテーブルで行うことが自然になれば、混雑緩和につながるかもしれません。

まずは「知る」ことから

メーカーには、社会が求めるものとは何かを考え、応えていく責務があります。四半世紀前のバブル期には、多く早く納品できるシステムチックなトイレが主流でしたが、徐々に空間の質が求められるようになりました。その質も個々のレベルで多様化しています。社会の多様化が進むのであれば、人それぞれに異なる価値観や感覚について、まずは「知る」ことから始めるべきではないでしょうか。相手のことを知らなければ、自分との違いも認識できません。

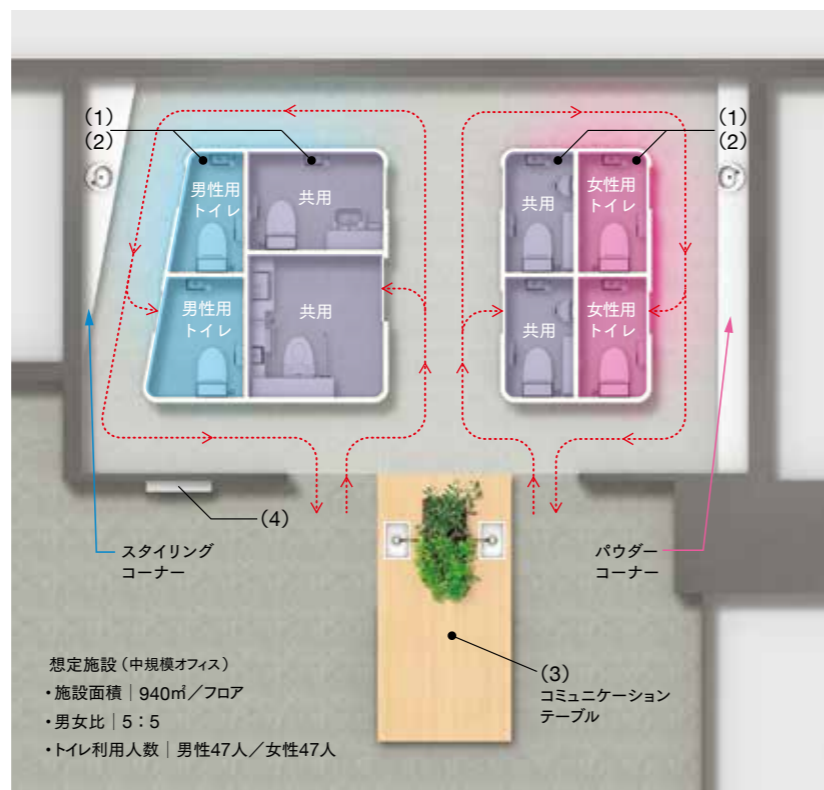
サステナブルな社会の実現を目指して、LIXILでもダイバーシティ&インクルージョン⁰⁴の実践に取り組んでいます。LIXILでもダイバーシティ&インクルージョン⁰⁴の実践に取り組んでいます。LIXILでもダイバーシティ&インクルージョン⁰⁴の実践に取り組んでいます。LIXILでもダイバーシティ&インクルージョン⁰⁴の実践に取り組んでいます。LIXILでもダイバーシティ&インクルージョン⁰⁴の実践に取り組んでいます。

に「使いたい」だけなのかもしれません。しかし、そんなありふれた行為すらままならない人たちがいると知ることが、ダイバーシティ&インクルージョンの実現へ向けた第一歩となるのではないのでしょうか。

LGBT当事者のみならず、障がい者や高齢者、育児者の声にも耳を傾け、多様化するオフィストイレのニーズに対して、デザインや空間がどのような解を用意できるのか、私たちはメーカーとしてこれからも社会とともに取り組んでいきたいと思えます。

だれもが選択可能な平等に開かれたトイレ

永山祐子建築設計×LIXIL



【図面1】

解説

1 | 2つの個室群によるコーナー分け

中央の道に面した男女共用トイレに加えて、それぞれの個室群の裏側に男性用・女性用トイレを配置することで選択性を高める。

2 | それぞれの個室おのおの機能を与える

必要に応じて選べるように多機能トイレやオムツ交換台などの機能をもった個室がある。男性用・女性用トイレを含め、すべての個室には手洗器を配置することで、個室内であらゆる行為を完結することができる。

3 | コミュニケーションスペースの創出

男女共用トイレにすることで器具数が減り、トイレ空間が縮小する代わりにコミュニケーションテーブルを配置した新たな共有スペースが生まれる。

4 | 入室システムの導入

入室をセンサーで管理し、画面で確認することで待合を減らし、人の動きを円滑にする。



- 01 当社調べ：首都圏1都3県（60代女性のみ1都6県）で働く20-69歳の男女を対象とした「オフィストイレに関するアンケート」（2017年6月実施、回答数1,030/男女比5:5）前回調査（2012年）の対象者が20-59歳のため、今回調査との比較は同じ年代を抽出
- 02 当社調べ：2015年に内閣府がとりまとめた提言「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を機に、訪日外国人が快適に利用できるパブリックトイレについて調査（2015年実施、回答数700/7カ国・各100）
- 03 当社および特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ調べ：「日本在住の10代以上のLGBT当事者に対するパブリックトイレに関するアンケート」（2015年実施、回答数624）。詳細は2016年4月8日の弊社ニュースリリースおよび、弊社企業情報誌「LIXIL eye」no.11（2016年）に「パブリックトイレにおけるダイバーシティ」として掲載
- 04 LIXIL Diversity & Inclusion宣言：Diversity（ダイバーシティ）とは「多様性」、Inclusion（インクルージョン）とは「包括」という意味で、「LIXIL Diversity & Inclusion宣言」では、多様性を互いに尊重し合うことで、すべての従業員がもてる力を最大限に発揮し、起業家精神をもって、つねに挑戦しつづけることができる企業文化を目指すことを掲げています

INFORMATION

NEWS | LIXILからのお知らせ

2017年度グッドデザイン賞を受賞

本年度は、LIXILの8商品とGROHEの3商品の計11商品が「2017年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。さらに、ミニマルなデザインでさまざまな住宅スタイルと美しく調和する「LIXILカーポートSC」（写真）が、カーポート商品として初めて「グッドデザイン・ベスト100」を受賞しました。

【LIXIL受賞商品】

カーポート「LIXILカーポートSC」、サッシ「MLシリーズ」、屋外用照明器具「美彩（2017モデル）」、シャワーセット「フルフォルシャワー」、シャワーバス水栓「プッシュ水栓」「クロマールS」、洗面器「ワイドスクエアボウル」、タイル「スマートモザイクシート」

【GROHE受賞商品】

ウォーターセンサー「GROHE Sense、GROHE Sense Guard」、浴室水栓「Lineare New Collection」、キッチン水栓「Concetto Professional」



GOOD DESIGN AWARD 2017
BEST 100

BOOKS & WEB

LIXIL出版新刊案内



現代建築家コンセプト・シリーズ24
『403architecture[dajiba]
建築で思考し、都市でつくる』
著者 | 403architecture[dajiba]
本体価格 | 1,800円 [税別、好評発売中]



『実況・近代建築史講義』
著者 | 中谷礼仁
本体価格 | 1,800円 [税別、好評発売中]



「ニッポン人列伝
時代をつくった貝コレクション」
執筆 | 奥谷尚司、石本君代
本体価格 | 1,800円 [税別、好評発売中]



10+1WEBSITE
http://10plus1.jp/
建築・都市を巡るサイト「10+1」では、毎月更新の特集記事のほか、特別記事や書評、建築写真アーカイブ、イベント情報をお届けします。

EXHIBITIONS & EVENTS | 展覧会イベント

LIXILギャラリー | 東京

〈巡回企画展〉
ニッポン人列伝
時代をつくった貝コレクション
会期 | 2018年3月8日(木)～5月26日(土)
日本近代貝類学の黎明期を築いた貝人10人の列伝と彼らの貝コレクションを中心とした約240点の資料から、貝の世界の魅力に迫ります。



リュウグウオキナエビス（河村コレクションより）
所蔵 | 国立科学博物館 [撮影：佐治康生]

〈建築・美術展〉
クリエイションの未来展
第14回 宮田亮平監修
「金工のかたりべ」

会期 | 開催中、3月20日(火)まで
金工作家・宮田亮平監修のもと、人間国宝2名を含む、第一線で活躍する現代金属工芸家11名の作品を展示しています。



大角幸枝 銀打出花器
「潜龍」φ25×H25cm

〈やきもの展〉
藤ノ木土平展「黙 & 吟」

会期 | 2018年2月27日(火)～4月24日(火)



二彩唐津おもちゃ匣 28×28×H23cm

LIXILギャラリー | 大阪

〈巡回企画展〉
ふるさとの駄菓子——
石橋幸作が愛した味と私たち
会期 | 2018年3月9日(金)～5月22日(火)
仙台駄菓子職人・石橋幸作さんが全国から集めた郷土菓子の意匠たち。日本の風土から生まれた食文化の一端を紹介します。



駄菓子風俗図絵「駄菓子さまざま」
所蔵 | 博物館 明治村 [撮影：佐治康生]

INAXライブミュージアム

〈企画展〉
天然黒くろ
——鉄と炭素のものがたり
会期 | 開催中、2018年4月10日(火)まで
会場 | 「土・どろんこ館」企画展示室
観覧料 | 共通入館料で観覧可
現代の暮らしのなかで愛される「黒」とその色素、「炭素」と「鉄」に焦点を当て、やきもの、漆、染織、墨、絵具など多様な「黒」の世界を披露します。



黒織部

織物文化館

〈企画展〉
「ザ・タペストリー」——新時代の幕開け・旧時代からの脱却——
昭和後期の斬新な綴織壁掛
会期 | 開催中、2018年8月31日(金)まで
近代建築の室内を彩った、昭和後期を中心とする抽象的なデザインや、有名作家の原画を元に織り上げたさまざまな綴織（つづれおり）壁掛を展示します。



[撮影：梶原敬英]

GALLERY & MUSEUM INFORMATION

LIXILギャラリー / 東京
Tel: 03-5250-6530
休館日: 水曜日、年末年始

LIXILギャラリー / 大阪
Tel: 06-6733-1790
休館日: 水曜日、年末年始

INAXライブミュージアム
Tel: 0569-34-8282
休館日: 水曜日(祝日の場合は開館)、年末年始

織物文化館
(川島織物セルコン内)
Tel: 075-741-4120
075-741-4323 (予約専用)
※見学は事前予約制です
休館日: 土・日・祝日、
夏季・年末年始(会社休業日)

所在地や開館時間などの詳細はWEBサイトをご覧ください。



①この線の厚(60μ)と色を揃った鉛筆を動かしていただき、
鉛筆の芯の厚

②実線を山折

③点線を谷折

④次頁と印を重ね合せてテープで留める

すべての建築は平面を通じてつくられる——イメージを人に伝えるために、ドローイング、スケッチ、テキスト、図面などさまざまな平面表現を行うところから建築は立ち現れるもの。ここから始まる3ページで、建築家の手を通じた自身の建築観を表す平面表現を試みる。

紙上の建築 03

インクと風か、紙とそら

海法 圭

本を読む。ページを繰るたびに紙と紙の間に空間が生まれては消えていく。僕たちはこのかりそめの空間を生み出すことでしか本の世界に入ることにはできない。ページの端を三角に折るのは、そこに



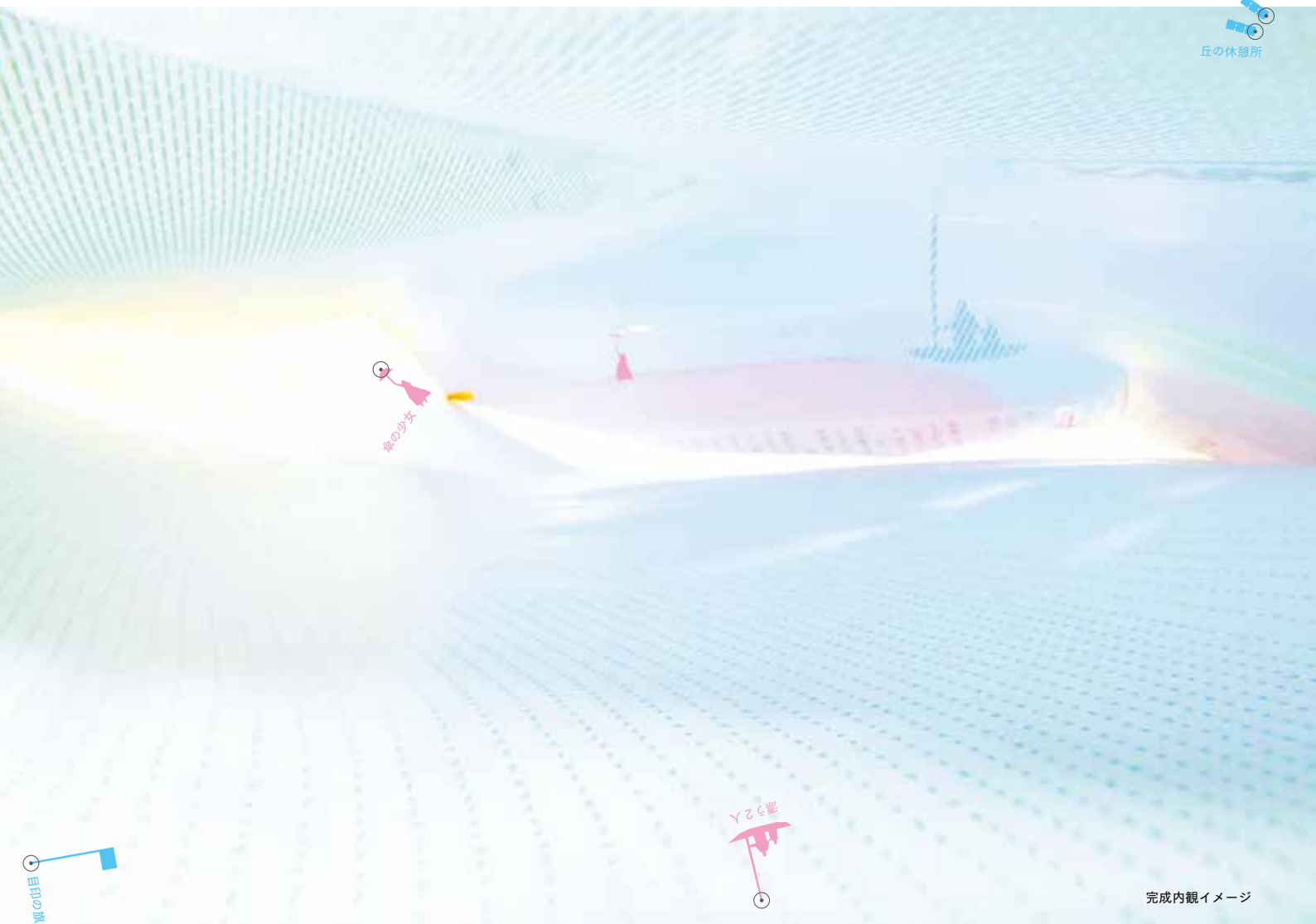
薄い空気の間を密やかに生み出して本の世界の余韻をカバンの中に漂わせておきたいからだ。

そうした紙と紙の間の繊細で不確かな空間の気配を、もう少しだけ確かなかたちにしたくて、握りつぶすようにゆがめた2枚の紙の重なりには、僕たちだけの秘密の世界を見出した。(虹色のドットと青い等高線が描かれた2枚の紙。作り方は①〜④を参照)

この世界はきわめてもろく、持ち方ひとつで気積が変化し、紙の艶に反射した光でインクは白くとぶ。ある人は虹色の坑道を深く深く潜り込み、ある人は空と海を駆け抜けるように。あるときは虹色のパラゴラをもつ砂丘でたわむれ、あるときは大地と大地にはさまれた惑星に不時着する。そんな、紙と紙の間に吹く風とインクが紡ぎ出す世界の話。

かいほう・けい

建築家/一九八二年生まれ。二〇〇五年、東京大学工学部建築学科卒業。二〇〇六年、実務経験。二〇〇七年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。二〇〇七〜二〇〇九年、株式会社西沢大良建築設計事務所勤務。二〇一〇年、海法圭建築設計事務所設立。現在、東京大学および芝浦工業大学非常勤講師。主な作品に、「西田の増築」(二〇一七)、「Angelica Garden」(二〇一四)、「タバコスタンド」(二〇一五)、「東成瀬の4層」(二〇一六)がある。



完成内観イメージ

桃色の添景



青色の添景



①添景の加工

②のついた添景を・部分は紙面から切り離さずに輪郭に沿ってカットし、桃色は下、青色は上に向かって折り曲げ立ち上げてください。



LIXIL

Link to Good Living

XW2300 01 2018.2.20 発行